一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科

学生確保の見通し等を記載した書類　資料

目次

資料１

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部
ソーシャル・データサイエンス学科
（仮称・令和５年４月開設予定・設置構想中）
「設置構想についての高校生アンケート調査」報告書

令和 3 年 11 月 17 日

株式会社高等教育総合研究所

目次

1　調査の概要

◆ 調 査 目 的 ：　本調査は、一橋大学が令和 5 年 4 月設置に向けて構想中の「一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。

◆ 調 査 期 間 ：　令和 3 年 9 月～令和 3 年 10 月

◆ 調 査 対 象 ：　令和 5 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、令和 3 年度の高校 2 年生を調査対象とした。具体的には、平成 29 年から令和 2 年の 5 年間で 50 人以上一橋大学への入学者を輩出した全国の高校 116 校を、令和 5 年 4 月に設置を構想中である「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」への進学者を多数輩出する学校であると捉え、該当高校に在学する高校 2 年生を対象として調査を依頼した。

◆ 調 査 方 法 ：　アンケート実施可能との回答のあった高校に、アンケート用紙と参照資料を送付。高校 2 年生にアンケートを回答してもらった後その場でご回収頂き、宅急便にて回答済用紙を受領した。なお、アンケート実施校の内訳は以下の通りである。

所在地域	学校数
東京都	15
埼玉県	6
神奈川県	3
千葉県	1
北海道	1
福岡県	1
合計	27

◆ 調 査 内 容 ： アンケート質問項目は全 10 問の選択式とし、主な質問内容は以下の通りである。

・回答者の基本情報について
・一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）への評価について
・一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）への受験意向及び入学意向について

◆ 実施高等学校 ： 27 校

◆ 有効回答件数 ： 4,930 件（無効回答数 22 件）

※回収分から、問 1（居住地）に無回答だった者、明らかに虚偽の居住地を回答した者の回答を無効回答とした。

2 全質問項目の集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも100%と一致しない。

3～8ページは、アンケートで回答を得た4,930人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

問1　あなたがお住まいの都道府県をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

※回答の多い順に並び替え

選択項目		回答数	構成比
1	東京都	2,892	58.7%
2	埼玉県	961	19.5%
3	神奈川県	517	10.5%
4	千葉県	379	7.7%
5	北海道	83	1.7%
6	福岡県	67	1.4%
7	栃木県	15	0.3%
8	茨城県	8	0.2%
9	群馬県	3	0.1%
10	山形県	2	0.0%
11	山梨県	2	0.0%
12	長野県	1	0.0%
合計		4,930	100.0%

問２　あなたの性別をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	男性	2,698	54.7%
2	女性	2,207	44.8%
	無回答	25	0.5%
合計		4,930	100.0%

問３　あなたは文系・理系どちらを選択しましたか。あるいは選択する予定ですか。お答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	文系	2,388	48.4%
2	理系	2,416	49.0%
3	未定、あるいは文系理系の選択はない	120	2.4%
	無回答	6	0.1%
合計		4,930	100.0%

問４　高校卒業後の進路について、希望するものをお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 4,930 人の延べ数

※各構成比 ＝ 回答数 ÷ 4,930

選択項目		回答数	構成比
1	国立大学	4,117	83.5%
2	公立大学	1,544	31.3%
3	私立大学	2,664	54.0%
4	短期大学	16	0.3%
5	専門学校･専修学校	69	1.4%
6	海外留学	258	5.2%
7	就職	46	0.9%
8	その他	30	0.6%
	無回答	8	0.2%

問５　あなたが興味を持っている学問分野をお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 4,930 人の延べ数

※各構成比 ＝ 回答数 ÷ 4,930

選択項目		回答数	構成比
1	文・人文学	994	20.2%
2	社会・国際学	1,241	25.2%
3	法・政治学	986	20.0%
4	経済・経営・商学	1,391	28.2%
5	教育学（教員養成・総合科学）	600	12.2%
6	理学	1,059	21.5%
7	工学	1,169	23.7%
8	農・水産学	419	8.5%
9	医・歯・薬・看護・保健学	879	17.8%
10	生活科学	177	3.6%
11	総合・環境・人間学	491	10.0%
12	情報学	687	13.9%
13	芸術・スポーツ科学	423	8.6%
14	その他	139	2.8%
	無回答	27	0.5%

問６　一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）には、以下のような特色があります。この中から、特に魅力的だと感じる特色をお選びください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 4,930 人の延べ数

※各構成比 ＝ 回答数 ÷ 4,930

選択項目		回答数	構成比
1	社会科学とデータサイエンスを融合した知識を身に付けられる	1,589	32.2%
2	統計学や情報学・人工知能などに基づいたデータサイエンスの知識を身に付けられる	1,696	34.4%
3	経営学、経済学、法学、社会学など既存の社会科学に横断的な知識を身に付けられる	1,964	39.8%
4	現在の社会における課題をデータ分析を利用して解決する方法を身に付けられる	1,529	31.0%
5	実際の企業や政府機関とのプロジェクトに基づいた演習に参加できる	1,837	37.3%
6	少人数での演習を通じて独自の問題意識に基づいた卒業論文を執筆する	421	8.5%
7	なし	421	8.5%
	無回答	34	0.7%

問７　あなたは一橋大学ソーシャル・ データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を、受験したいと思いますか（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	受験したい	734	14.9%
2	受験したくない	4,183	84.9%
	無回答	13	0.3%
合計		4,930	100.0%

問 8～問 9 は、問 7 で「受験したい」と回答した 734 人が回答対象である。

問 8　「問 7」で一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を「受験したい」と回答した理由をお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 734 人の延べ数

※各構成比 ＝ 回答数 ÷ 734

選択項目		回答数	構成比
1	自宅からの通学が便利だから	170	23.2%
2	養成する人材像に共感できるから	132	18.0%
3	学べる内容に興味・関心があるから	622	84.7%
4	希望する就職が期待できるから	130	17.7%
5	その他	17	2.3%
	無回答	9	1.2%

問 9　あなたが一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を受験して合格した場合、入学したいと思いますか　（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

選択項目		回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	354	48.2%
2	合格した場合、併願する大学の結果によっては入学したい	338	46.0%
	無回答	42	5.7%
合計		734	100.0%

問 10 は、問 7 で「受験したくない」と回答した 4,183 人が回答対象である。

問 10　「問 7」で一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を「受験しない」と回答した理由をお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 4,183 人の延べ数

※各構成比 ＝ 回答数 ÷ 4,183

選択項目		回答数	構成比
1	興味・関心のある分野ではないから	2,590	61.9%
2	興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	1,053	25.2%
3	興味・関心のある分野だが、新設学部へ進学するのは不安だから	345	8.2%
4	興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知ったうえで検討したいから	547	13.1%
5	卒業後の進路として、大学への進学を考えていないから	15	0.4%
6	自宅からの通学が不便だから	173	4.1%
7	学費が高いから	127	3.0%
8	その他	143	3.4%
	無回答	15	0.4%

3 集計結果のポイント

※「構成比」（%）はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって、合計はかならずしも 100%と一致しない。

● 回答者の約半数が東京都在住、男女比はおおよそ５割ずつ

問１、問２の回答者の属性を問う質問の回答結果では、居住地は東京都が 2,892 人（58.7%）、埼玉県が 961 人（19.5%）、神奈川県が 517 人（10.5%）、千葉県が 379 人（7.7%）と本学科が所在する東京都を中心に、首都圏からの回答が 9 割以上であった。また男女の比率は、男性が 2,698 人（54.7%）、女性が 2,207 人（44.8%）とおおよそ 5 割ずつであった。

表　回答者の居住地（問 1）

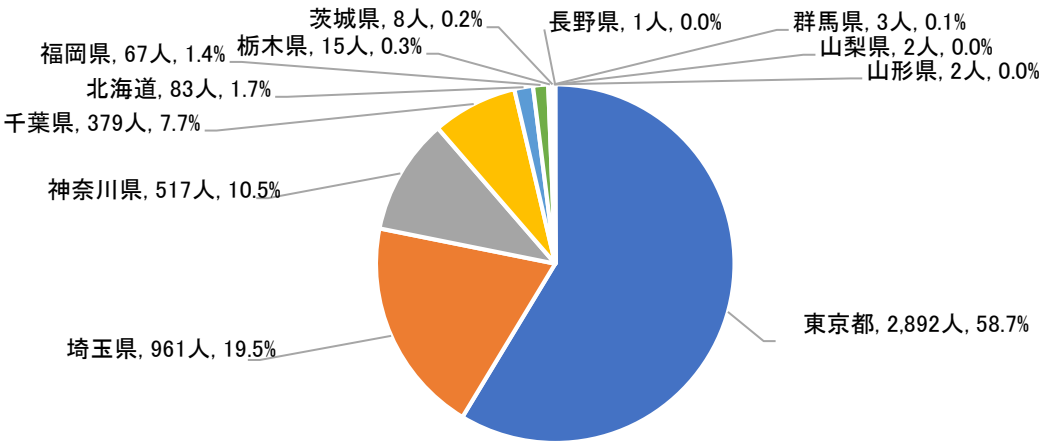
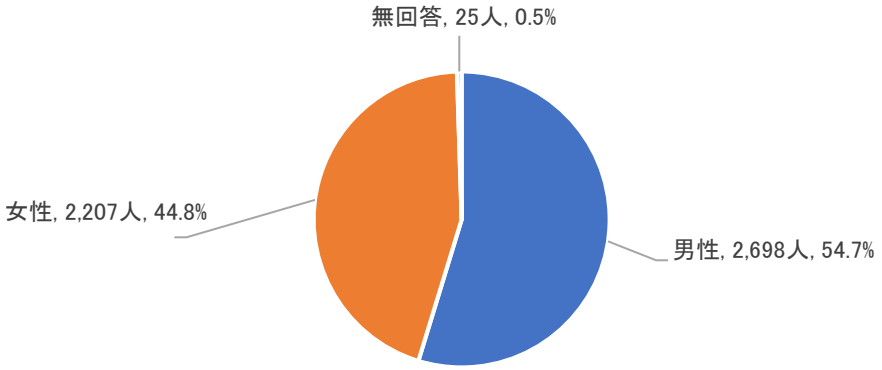


表　回答者の性別（問 2）



● 本学科の学校種、学問分野に多数の需要が示される

高校卒業後の希望進路を問う問 4、問 5（複数回答可）の回答結果では、国立大学を希望する者が 4,117 人（83.5%）であった。また、興味のある学問分野については、1,391（28.2%）が経済・経営・商学、1,241 人（25.2%）が社会・国際学、1,169 人（23.7%）が工学、986 人（20.0%）が法・政治学、687 人（13.9%）が情報学と回答した。本学科の学校種や、本学科に関連する学問分野を希望する回答者が多数という結果を得た。

表　高校卒業後の希望進路（問 4）

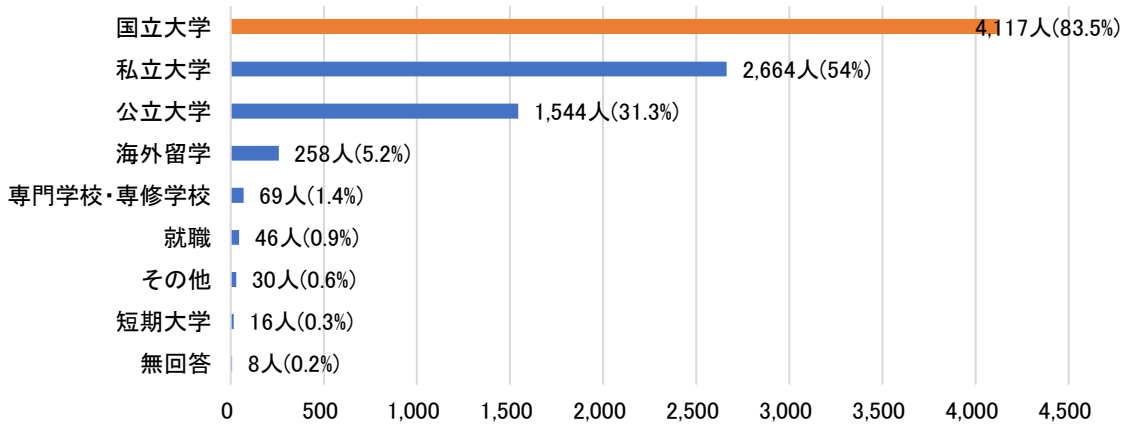
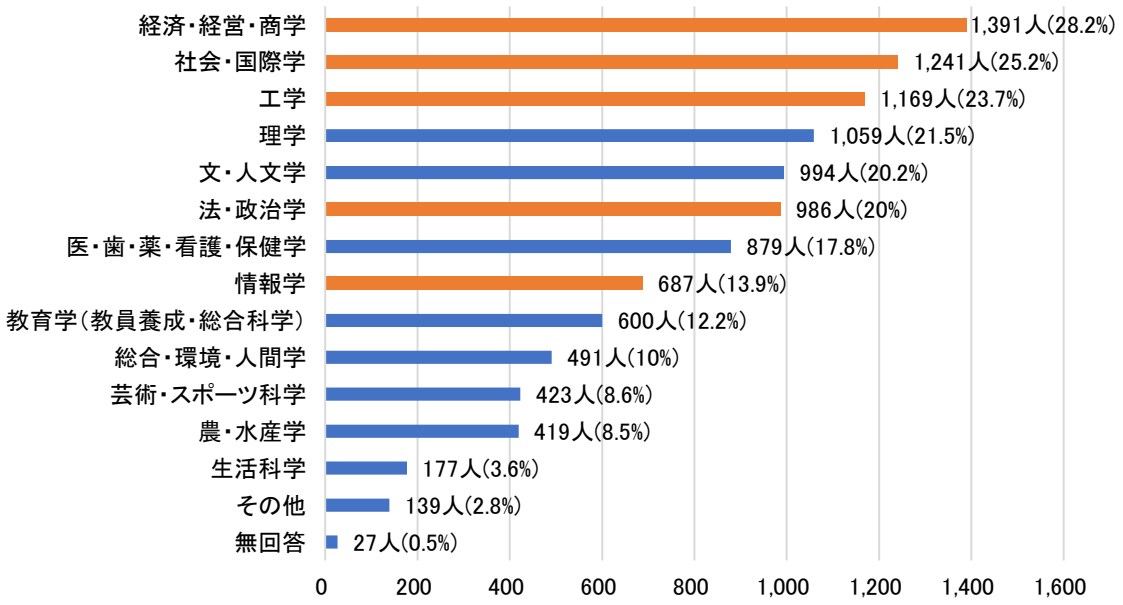


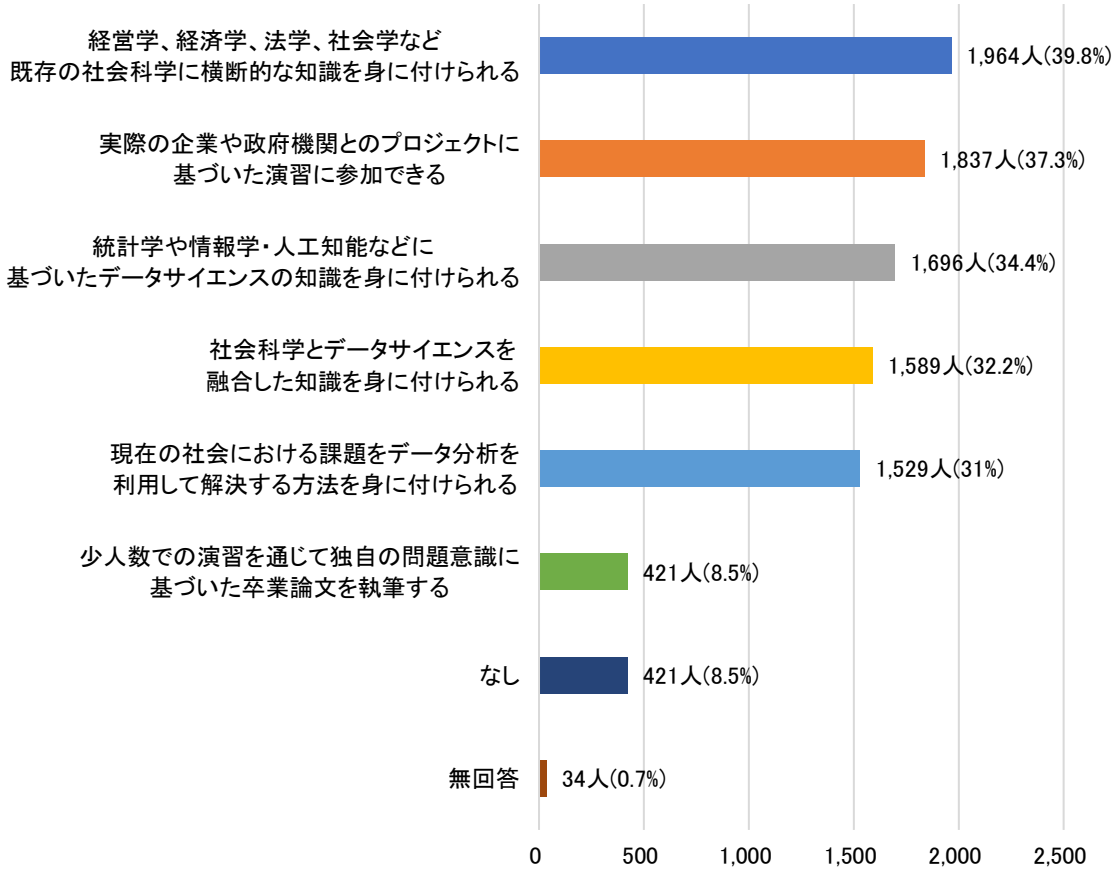
表　興味ある学問分野（問 5）



●５つの特色それぞれに魅力を感じるという回答結果

本学科の特色の中で特に魅力的だと感じるものをたずねた問６（複数回答可）への回答結果では、1,964 人（39.8%）が「経営学、経済学、法学、社会学など既存の社会科学に横断的な知識を身に付けられる」、1,837 人（37.3%）が「実際の企業や政府機関とのプロジェクトに基づいた演習に参加できる」、1,696 人（34.4%）が「統計学や情報学・人工知能などに基づいたデータサイエンスの知識を身に付けられる」、1,589 人（32.2%）が「社会科学とデータサイエンスを融合した知識を身に付けられる」、1,529 人（31.0%）が「現在の社会における課題をデータ分析を利用して解決する方法を身に付けられる」、421 人（8.5%）が「少人数での演習を通じて独自の問題意識に基づいた卒業論文を執筆する」と回答した。本学科の特色ほぼすべてに、多くの者が魅力を感じていると言える。

表　本学科の特色について（問 6）



● 予定入学定員を大きく上回る 354 人が入学意向を示す

受験意向を問う問 7 の回答結果では、回答者 4,930 人のうち 734 人（14.9%）が「（本学科を）受験したい」と回答した。「受験したい」と回答した 734 人に問 8 で受験したい理由をたずねたところ（複数回答可）、「学べる内容に興味・関心があるから」が最も多く 622 人（84.7%）であった。

また、「受験したい」と回答した 734 人のうち、入学意向を問う問 9 に対し、354 人（48.2%）が「合格した場合、入学したい」と回答した。本学科の入学定員は 60 人であり、それを十分に上回る受験意向・入学意向の回答を得た。

グラフ　受験意向（問 7）

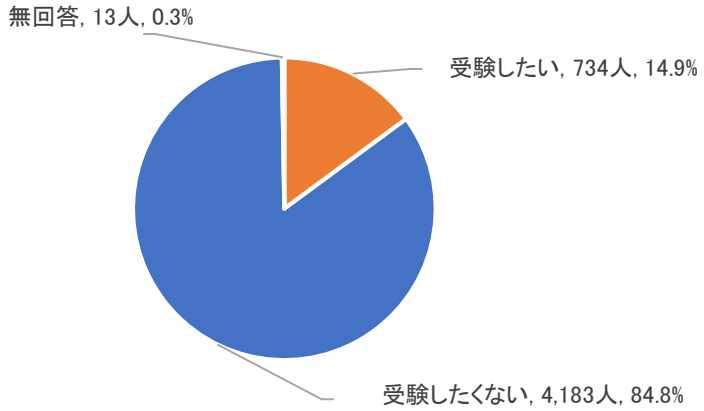


表　受験したい理由（問 8）

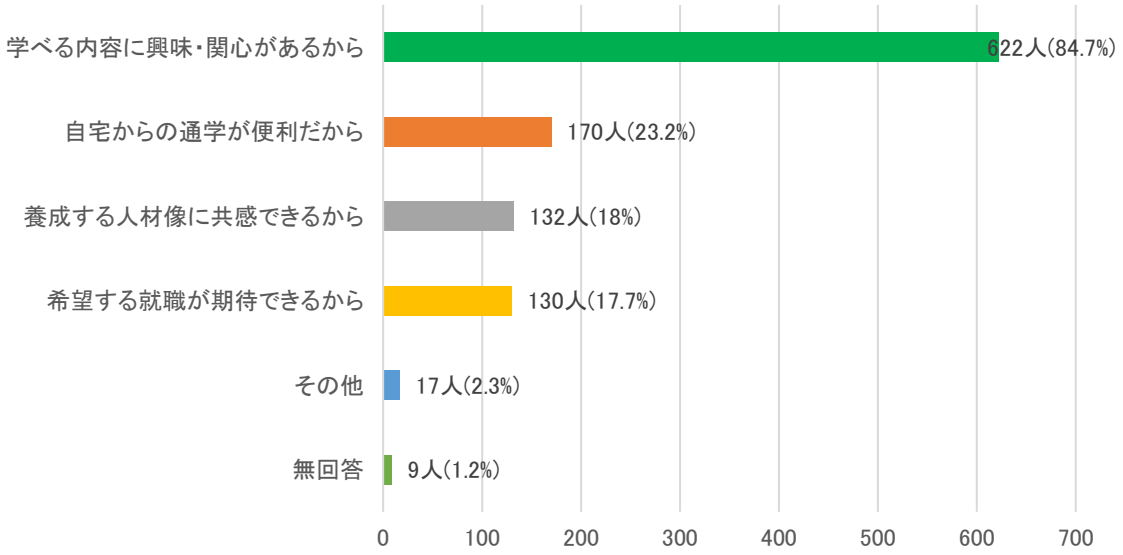
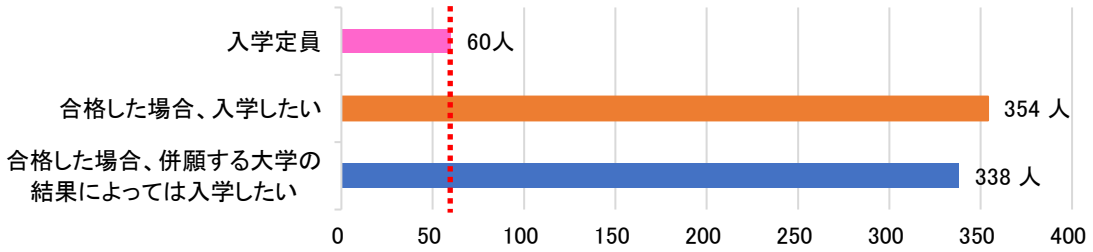


表　入学意欲（問 9）



また、問 9 で「合格した場合、入学したい」と回答した 354 人のうち、卒業後の進路希望をたずねた問 4 で「国立大学」を回答に挙げたのは 322 人であった。そのうち、興味がある学問分野をたずねた問 5 で、本学科のカリキュラムに関連する学問分野を回答した人数は以下の通りとなった。

	問 5　興味がある学問分野における回答						
	社会・国際学	法・政治学	経済・経営・商学	工学	情報学	左記 5 分野すべてにマーク	左記 5 分野にひとつもマークなし
問 4 卒業後の進路希望で国立大学進学と回答（322 人）	115 人	96 人	177 人	75 人	93 人	2 人	27 人

● 予定する入学定員を大きく上回る 354 人が入学意欲を示した

以上の結果より、一橋大学が令和 5 年 4 月に設置構想する「一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」の学生確保の見通しは、734 人が受験意向を示し、そのうち 354 人が入学意向を示す回答であり、予定する入学定員の 60 人を大きく上回る回答結果であるため、問題なしと判断できる。

添付資料

「一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）
設置構想についての高校生アンケート調査(対象：2021年度現在、高校2年生の皆さん)」
用紙

一橋大学
ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）

設置構想についての高校生アンケート調査
（対象： 2021年度現在、 高校2年生の皆さん）

一橋大学は、2023年4月に、「ソーシャル・ データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」＜入学定員60名予定＞の設置を構想しています。本学では、このアンケート調査を通して、2023年に大学進学時期を迎える現 高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、構想内容に反映したいと考えています。

なお、ご回答いただいた皆さんから得られた情報は、一橋大学の「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」の設置構想に係る統計資料ならびに、文部科学省への設置認可申請書類の一部資料としてのみ活用いたします。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。
高校生の皆さんのアンケート調査へのご協力を、 よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は、一橋大学から委託された第三者機関・株式会社高等教育総合研究所が実施しています。
※このアンケート調査や関連する資料に記載されている「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」に関する事項はすべて予定であり、今後内容が変更になる可能性があります。

【アンケート記入にあたっての注意事項】
・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用してください。
・訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
・解答用紙〔マークシート〕を汚したり、折り曲げたりしないでください。

上の正しい回答のように丁寧に塗りつぶしてください。
誤った回答のような場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。

あなたご自身についてお伺いします。

問１ あなたがお住まいの都道府県をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 北海道	○ 青森県	○ 岩手県	○ 宮城県	○ 秋田県	○ 山形県	○ 福島県
○ 茨城県	○ 栃木県	○ 群馬県	○ 埼玉県	○ 千葉県	○ 東京都	○ 神奈川県
○ 新潟県	○ 富山県	○ 石川県	○ 福井県	○ 山梨県	○ 長野県	○ 岐阜県
○ 静岡県	○ 愛知県	○ 三重県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府	○ 兵庫県
○ 奈良県	○ 和歌山県	○ 鳥取県	○ 島根県	○ 岡山県	○ 広島県	○ 山口県
○ 徳島県	○ 香川県	○ 愛媛県	○ 高知県	○ 福岡県	○ 佐賀県	○ 長崎県
○ 熊本県	○ 大分県	○ 宮崎県	○ 鹿児島県	○ 沖縄県		

問２ あなたの性別をお答えください（あてはまるもの1 つにマークをしてください）。

○ 男性　○ 女性

問３ あなたは文系・理系どちらを選択しましたか。あるいは選択する予定ですか。お答えください（あてはまるもの1 つにマークをしてください）。

○ 文系　○ 理系
○ 未定、 あるいは文系理系の選択はない

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

高校卒業後の進路や、 興味のある学びについてお伺いします。

問４ 高校卒業後の進路について、希望するものをお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- ○ 国立大学
- ○ 公立大学
- ○ 私立大学
- ○ 短期大学
- ○ 専門学校・専修学校
- ○ 海外留学
- ○ 就職
- ○ その他

問５ あなたが興味を持っている学問分野をお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- ○ 文・人文学
- ○ 社会・国際学
- ○ 法・政治学
- ○ 経済・経営・商学
- ○ 教育学（教員養成・総合科学）
- ○ 理学
- ○ 工学
- ○ 農・水産学
- ○ 医・歯・薬・看護・保健学
- ○ 生活科学
- ○ 総合・環境・人間学
- ○ 情報学
- ○ 芸術・スポーツ科学
- ○ その他 [　　]

問６以降は、 別紙・一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部（仮称） の概要をご覧の上でお答えください。

問６ 一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）には、以下のような特色があります。この中から、特に魅力的だと感じる特色をお選びください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- ○ 社会科学とデータサイエンスを融合した知識を身に付けられる
- ○ 統計学や情報学・人工知能などに基づいたデータサイエンスの知識を身に付けられる
- ○ 経営学、経済学、法学、社会学など既存の社会科学に横断的な知識を身に付けられる
- ○ 現在の社会における課題をデータ分析を利用して解決する方法を身に付けられる
- ○ 実際の企業や政府機関とのプロジェクトに基づいた演習に参加できる
- ○ 少人数での演習を通じて独自の問題意識に基づいた卒業論文を執筆する
- ○ なし

問７ あなたは 一橋大学ソーシャル・ データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を、受験したいと思いますか（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

- ○ 受験したい　　⇨問８へお進みください
- ○ 受験したくない ⇨問10へお進みください

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問８～９は、問７で「受験したい」と回答した方がお答えください。

問８ 「問７」で一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を「 受験したい」と回答した理山をお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- ( ) 自宅からの通学が便利だから
- ( ) 養成する人材像に共感できるから
- ( ) 学べる内容に興味・関心があるから
- ( ) 希望する就職が期待できるから
- ( ) その他

問９ あなたが一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を受験して合格した場合、入学したいと思いますか（あてはまるもの1 つにマークをしてください）。

- ( ) 合格した場合、入学したい
- ( ) 合格した場合、併願する大学の結果によっては入学したい

問７で「受験したい」と回答した方の質問は以上です。ありがとうございました。

問10は、問７で「受験しない」と回答した方のみお答えください。

問 10 「問７」で一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を「受験しない」と回答した理由をお答えください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- ( ) 興味・関心のある分野ではないから
- ( ) 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
- ( ) 興味・関心のある分野だが、新設学部へ進学するのは不安だから
- ( ) 興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知ったうえで検討したいから
- ( ) 卒業後の進路として、大学への進学を考えていないから
- ( ) 自宅からの通学が不便だから
- ( ) 学費が高いから
- ( ) その他

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

一橋大学　ソーシャル・データサイエンス学部
ソーシャル・データサイエンス学科

仮称

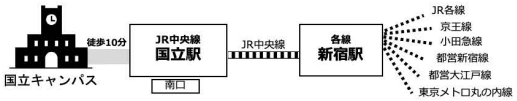
令和5（2023）年4月開設に向け、設置構想中

※記載されている内容は構想中のものであり、変更となる可能性があります

概要

開設時期：	令和5（2023）年4月
開設場所：	国立キャンパス（東京都国立市中2-1）
修業年限：	4年
入学定員：	60名（収容定員：240名）
取得学位：	学士（ソーシャル・データサイエンス）

アクセス



JR中央線「国立」駅南口より徒歩10分

養成する人材像

ソーシャル・データサイエンス学部（仮称）では、以下のような能力を備えた人材を養成します

- **社会科学とデータサイエンスの知識を融合することができる能力を備えた人材**
- **社会で蓄積されるデータを用いて、ビジネスや社会の諸課題に対する解決策を提案・実践できる能力を備えた人材**

カリキュラムの特色

■ソーシャル・データサイエンス学部教育科目

- **学部導入科目：**社会科学の方法論を概観し、社会においてデータサイエンスの知識を実践するうえでの倫理や法的課題を学びます。
- **学部基礎科目：**社会科学の基礎知識と統計モデルや機械学習の基礎を修得します。
- **学部発展科目：**企業経営の課題を洞察しイノベーションを図る「ビジネス・イノベーション分析科目」および社会課題や政策効果を洞察し解決策や改善策を探る「社会経済課題解決科目」では、社会科学とデータサイエンスの知識が融合した事例に基づく授業を展開します。また、Project Based Learning（PBL）演習を必修とし、企業や政府機関等で実際に行われているデータ分析に直接関わり、社会科学とデータサイエンスの知識を実践的に融合します。

■全学共通教育科目：教育課程全般に必要な「数学科目」や「外国語科目」、データサイエンスの知識の基盤となる「情報科目」と「統計科目」を学びます。

■他学部教育科目：他学部が開講する科目を履修し、広く社会科学の知識を養います。

■ゼミナール：担当教員や他学生との共働を通じて、自発的に研究テーマを設定し、卒業論文を執筆します。

初年次学費

入学金	授業料	合計
282,000円	前期分：321,480円 後期分：321,480円	924,960円

卒業後の進路

ソーシャル・データサイエンス学部（仮称）を卒業した学生は、以下のような進路での活躍が期待されます

- 民間企業（情報技術を活用する企業等）等のプロダクトマネージャー、ビジネスデザイナー、プロダクトデザイナー、データサイエンティスト　など
- 政府機関／金融機関（リスク管理部門や調査部門）／コンサルティング企業／シンクタンク等の政策分析担当者、リスク・マネージャー、予測担当者　など
- 大学院進学（一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称））など

※令和5（2023）年4月に一橋大学大学院にソーシャルデータサイエンス研究科（仮称）修士課程も同時設置構想中です。

競合する大学

理・工学系	東京大学理科一類、京都大学理学部／工学部、大阪大学理学部／基礎工学部、筑波大学理工学群、慶應義塾大学理工学部、早稲田大学基幹理工学部／創造理工学部、東京工業大学工学院／情報理工学院／環境・社会理工学院
情報系	名古屋大学情報学部、筑波大学情報学群、慶應義塾大学環境情報学部
経済学・商学系	東京大学文科二類、京都大学経済学部、大阪大学経済学部、慶應義塾大学経済学部／商学部／総合政策学部、早稲田大学政治経済学部／商学部
データサイエンス系	滋賀大学データサイエンス学部、横浜市立大学データサイエンス学部

資料２

KANEMATS
兼松株式会社 〒105-8005 東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ならびに
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

貴学におかれましては、社会科学の総合大学として、グローバルな課題解決に向けた社会イノベーションに資する人材育成をその使命と掲げ、先端的かつ国際的な社会科学の研究を推進し、日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献してこられました。

その姿勢は、伝統的開拓者精神をもって企業の社会的責任を果たし、国際社会に貢献するという当社の創業主意とも相通じるものであります。

業界秩序を覆すような技術やビジネスモデルの出現により、全ての業界がデジタルトランスフォーメーション（DX）推進を急務としています。

係る情勢下、当社においても、事業活動を通じて得られるデータをデータサイエンスの知見に基づいて分析し、事業・サービスの開発を牽引できるような学部卒業レベルの人材が求められています。また、高度な分析を通じて、事業改善やサービス向上に関する提言ができる人材、得られたデータに高度な分析を施すことによって、価値の創造を顕現させ新たなビジネスアイデアを創出することができる大学院修士課程卒業レベルの人材が求められています。

貴学で積み重ねてきた社会科学研究の礎に高度なデータサイエンスの知識を融合することで、データ利活用に基づいた社会課題解決の提案・実行ができる人材育成が推進されると認識しており、貴学が進めようとしているデータサイエンス人材の教育研究プログラムに大きな期待があります。

つきましては、貴学において、ソーシャル・データサイエンス学部ならびに大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置が早期に実現されることを強く要望いたします。

令和四年一月十二日

東京都港区芝浦一丁目2番1号
兼松株式会社
代表取締役　宮部佳也

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

一橋大学（貴学）のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

近年、個人のライフスタイルや価値観は多様化、意思決定プロセスや消費行動がデジタル中心に移行するなど、劇的な社会変化を迎えております。そうした変化で社会には膨大なデータの蓄積がなされる中で、そのデータを読み解き社会課題を解決する人材が日本のみならず世界で求められると認識されています。

当社においては、まちづくりを通した社会貢献を掲げる中で多様な１人ひとりに「まちと関わる意味」を明示すべく、リアルな不動産とデジタルを融合させたUXをデザインしどう価値提供するのかを喫緊の課題として考えております。
このような人材には、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを活用し社会経済の諸課題を改善・解決・イノベーションできる能力が備わっていることが肝要であると認識しており、貴学が進めようとしている人材養成に大きな期待をしております。
また、大学卒業レベルの基本的な分析力と課題解決力を有する人材の不足も課題であると同時に、大学院修士卒業レベルのより発展的な分析力や課題解決力の人材も不足していることから、学部だけでなく大学院の設置も急務であると考えます。

また、貴学におかれましては、これまで市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもとに日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献されてきました。
このように社会科学の歴史と実績に基づく強固な教育研究基盤がある貴学であるからこそ、データサイエンスの要素が加わることで、当社のみならず社会経済の要請の隅々にまで応えることのできるソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設されることと大いに期待し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和４年２月２日

東京都千代田区大手町一丁目１番１号
三菱地所株式会社
執行役社長　　吉田　淳一

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

一橋大学（貴学）のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

近年、急速なIT技術の進展により社会環境が大きく変貌しており、膨大なデータを読み解き社会経済の課題解決力を有する人材の養成が日本の産業競争力強化や社会経済発展のために不可欠の要件であると広く認識されております。

当社においては、様々な事業活動を通じて取得されたデータを基にした分析を効果的に活用することで、事業創造や課題解決を行うことができる人材の育成を喫緊の課題として考えております。

このような人材には、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを活用し社会経済の諸課題を改善・解決・イノベーションできる能力が備わっていることが肝要であると認識しており、貴学が進めようとしている人材養成に大きな期待をしております。

また、大学卒業レベルの基本的な分析力と課題解決力を有する人材の不足も課題であると同時に、大学院修士卒業レベルのより発展的な分析力や課題解決力の人材も不足していることから、学部だけでなく大学院の設置も急務であると考えます。

また、貴学におかれましては、これまで市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもとに日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献されてきました。

このように社会科学の歴史と実績に基づく強固な教育研究基盤がある貴学であるからこそ、データサイエンスの要素が加わることで、当社のみならず社会経済の要請の隅々にまで応えることのできるソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設されることと大いに期待し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和　4　年　1　月　19　日

日本アイ・ビー・エム株式会社
代表取締役社長執行役員
山口　明夫

国立大学法人一橋大学長　中野　聡　殿

一橋大学（仮称）ソーシャル・データサイエンス学部ならびに
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置に関する要望書

貴学におかれましては、日本及び世界の様々な課題の解決に向けた社会イノベーションに資する知識創造と人材育成を使命とし、先端的・学際的・国際的な社会科学の研究・教育を推進することを目指されています。

現代社会はIT技術の急速な進展により、これまで以上に社会科学の重要性が増すと考えられ、弊社の関わるエンターテインメント産業発展のために、以下のように新たな人材育成を行っていただけますよう要望いたします。

急速なIT技術の進展により社会環境が大きく変貌しております。

弊社においては、「感動だけが、人の心を撃ち抜ける」という思いのもと、コンテンツ創造に関する事業を40年以上に渡って行って参りました。近年は、コンテンツ産業のグローバル化とテクノロジーの進展により、感動を与えるコンテンツの創造やその普及には、データに基づく判断が極めて重要であると認識しております。

弊社では、コンテンツ制作事業・ライブ事業・マーチャンダイジング事業・ファンコミュニティ事業等で生成された多様なデータ、ソーシャルメディアやウェブ媒体に発信される大量のデータ、その他の事業活動に関係する弊社以外の企業等が生成したデータなどの分析に基づく価値創造を求めております。

これらのデータは多様かつ膨大であり、性質も大きく異なることから、一般的なデータ分析手法では有益な知見を得ることができません。また、データ分析は事業活動と不可分であり、戦略的重要性が高いことから、その分析は社内で行う必要があり、それを担う人材にはデータ分析だけでなく、コンテンツ創造や経営的判断に関する知見も有する必要があります。

このような状況から、貴学が進められようとしている社会科学に関する深い知見を有しつつ、データサイエンスのスキルを活用可能な学部レベルの人材は、プロダクトやサービスの開発、プロモーション・マーケティング活動、情報リスクマネジメントを牽引できることが期待され、弊社が正に求める人材と重なります。

また、ビッグデータ分析や最先端のＡＩを活用することで、エンターテインメントのヒット創出につながるコンテンツの条件や事業改善に必要な情報を提供できたり、クリエイター・コンテンツ・バリューチェーン・メディア・ユーザーの要素がマルチに交錯した環境から得られたデータを基に新しいモデルを構築し、高度な分析を施すことによって、これまで得られなかった新しい知見を得ることができるような、大学院修士課程卒業レベルの人材も求めています。

このような人材には、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを用い

て、社会課題に対する解決策を提案・実行できる能力求められることから、貴学が進めようとしている人材育成に大きな期待があります。

つきましては、貴学において、ソーシャル・データサイエンス学部ならびに大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置を早期に実現され、これまで以上に市民社会に有為な人材を輩出されますよう、特段の配慮をお願い致します。

令和４年１月13日

株式会社アミューズ
代表取締役
中西　正樹

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ならびに
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置に関する要望書

貴学におかれましては、市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもとに日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献してきました。

現代社会はIT技術の進展により、これまで以上に社会科学の重要性が増すと考えられ、以下のように新たな人材育成を行っていただけますよう要望いたします。

急速なIT技術の進展により社会環境が大きく変貌しております。

弊社は企業のDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進に関するコンサルティング業務を行っており、その活動を通じて企業における人材ニーズの変化を感じております。現在の日本企業においては、学部卒業レベルの人材としては、事業活動で生成されるデータをデータサイエンスの知見に基づいて分析し、経営者の意思決定、顧客起点の新たな製品・サービスの開発、現場業務の効率化や抜本的改革などを提案できる人材が求められています。また、そのような人材の中でも企業の中でDXのリーダーシップを担うことができるゼネラリストの育成が急務です。さらに、修士課程卒業レベルの人材としては、大量データに先進的なアルゴリズムを適用して構築した分析基盤を活用し、企業の価値創造や生産性向上に必要な情報を提供したり、斬新なビジネスモデルを構想し実現したりできるスペシャリスト人材が求められています。

上記のような人材には、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを用いて、社会課題に対する解決策を立案・実行できる能力が求められることから、貴学が進めようとしているソーシャル・データサイエンスに関する学部および大学院の人材育成に大きな期待があります。

つきましては、貴学において、ソーシャル・データサイエンス学部ならびに大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置を早期に実現され、これまで以上に市民社会に有為な人材を輩出されますよう、特段の配慮をお願い致します。

令和　4年　1月　11日

ドルビックスコンサルティング株式会社
取締役 COO
武藤　覚　<印>
武藤 覚

別　紙

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ならびに
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置に関する要望書

貴学におかれましては、市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもとに日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献してきました。

第四次産業革命と呼ばれる技術革新や我が国における少子高齢化・長寿化の潮流は、2030年までに大きな人財需給ギャップを生み出し、これまで以上に技術革新をリードしビジネスに適用する人材の重要性が増すと考えられます。こうした社会課題を解決するため、以下のように新たな人材育成を行っていただけますよう要望いたします。

企業においては、確かなデータサイエンスの知見に基づき、事業活動を通じて得られるデータや第三者から入手したデータを基にモデルを構築し新たな付加価値を提供できる人材、高度な分析によって事業改善やプロダクト改善などの事業に資する知恵・示唆を導出することができる大学院修士課程卒業レベルの人材が求められています。また、学部卒業レベルにおいても、分析手法が高度化する中、それらの手法と取り扱うデータおよび事業課題を正しく理解し、必要な分析を行うことができる人材が求められています。

これまでデータサイエンスの知見を持つ人材育成は主に理系の学部や大学院に期待が寄せられていましたが、昨今はこのような人材に分析手法だけでなくビジネスへの適応まで求められるように企業も変化してきております。社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを用いて、社会課題に対する解決策を提案・実行できる能力が求められることから、貴学が進めようとしている人材育成に大きな期待があります。

つきましては、貴学において、ソーシャル・データサイエンス学部ならびに大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置を早期に実現され、これまで以上に市民社会に有為な人材を輩出されますよう、特段の配慮をお願い致します。

令和　4年　1月　24日

株式会社三菱総合研究所

代表取締役社長　籔田　健二

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

貴学のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

近年デジタル化が急速に進み、事業会社には業務を通じて膨大なデータが蓄積されるようになりましたが、生み出されたデータの活用はまだ十分になされているとは言い難い状況です。データの利活用にはデータ分析の技術力だけではなく、当該事業のビジネスプロセスへの深い理解が必要であり、そのような人材は非常に稀であるということが利活用の進まない理由の一つであります。

当社においては、保険事業の活動を通じて蓄積されたデータを基にし、社内業務の効率化や変革、ビジネスの拡大などを通じて社会に貢献することを目指しています。しかし、先ほど述べたような人材は希少であり、獲得も難しいことから人材の育成は喫緊の課題となっております。

保険は長年、データをもとにして商品を設定してきた背景がございますが、今後、広く社内外のビジネスにデータの分析結果を利活用するためには、分析者に社会科学の知識が不可欠であると考えております。そのため、データサイエンスの知識を有し社会経済の諸課題を改善・解決・イノベーションできる能力が備わる人材を求めており、貴学が進めようとしている人材養成に大きく期待をしております。また、社内において経営層あるいは社外のステークホルダーに対してニーズ発掘のためのヒヤリングや分析結果の説明を行うためには、大学卒業レベルの基本的な分析力と課題解決力に加え、ビッグデータに対応した分析力や高度な実践力といった大学院レベルの能力の修得も必要であり、学部だけでなく大学院の設置も不可欠であると考えます。

社会科学の歴史と実績に基づく強固な教育研究基盤がある貴学であるからこそ、データサイエンスの要素が加わることで、当社のみならず社会経済の要請の隅々にまで応えることのできる人材を輩出できると考えております。ソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設されることを大いに期待し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和4年1月25日

損害保険ジャパン株式会社
取締役社長
西澤　敬二　<印>

NYK LINE
NIPPON YUSEN KAISHA

Yusen Building
3-2, Marunouchi 2-chome
Chiyoda-ku, Tokyo 100-0005
Japan
Tel: +81-3-3284-5151
https://www.nyk.com/

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置に関する要望書

貴学におかれましては、市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風の下に日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献されてきました。

現代社会はVUCAの時代と言われている様に、気候変動、パンデミック、国際的な紛争等先行きの読めない状況になってきております。企業としても大きな変革と社会課題の解決が期待されており、最新の情報技術を利活用し、社会科学を基盤とした高度なデータ分析が出来る人材育成・採用が求められております。貴学におかれましても、今後の社会経済の発展を担う以下のような新たな人材育成を行っていただけますよう要望いたします。

弊社においては、事業活動を通して生成されるデータを高度に分析し、更なる安全性の向上、新しい働き方への対応、環境問題への対応等を通し、持続可能なESGを軸とした事業活動を行い、同時に新しい時代に対応した新しい事業を創造していく必要があり、これを推進出来る、高度なデータ分析と新しい発想を持った人材が求められております。

このような人材には、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを用いて、社会課題に対する解決策を提案・実行できる能力が求められることから、貴学が進めようとしている人材育成に大きな期待があります。

つきましては、貴学において、ソーシャル・データサイエンス学部ならびに大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置を早期に実現され、これまで以上に市民社会に有為な人材を輩出されますよう、特段の配慮をお願い致します。

令和4年1月31日

日本郵船株式会社
代表取締役社長
長澤　仁志

NYK GROUP

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

一橋大学におけるソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

独立行政法人経済産業研究所（RIETI）は、理論的・実証的な研究とともに政策現場とのシナジー効果を発揮して、エビデンスに基づく政策形成（EBPM）に貢献することをミッションとする政策研究機関です。2001 年の発足以降、経済学を専門とする研究員を中心に政策研究を行ってきております。政府統計のミクロデータはもとより、民間のビッグデータを利用した研究も重要性を増しており、経済学をはじめとする社会科学の知識に加えて、大規模なデータを活用するデータサイエンスのスキルをあわせ持った人材へのニーズが高まっています。論文の執筆に当たる研究員に限らず、研究をサポートするスタッフにおいても、同様にデータサイエンスに関する知識や能力が不可欠になってきています。

しかしながら、日本ではそうした人材の供給が十分ではなく、RIETI においても適材の採用が難しい状況にあります。このため、大学院レベル、学部レベルの両方において、社会科学とデータサイエンスの知識を兼ね備えた人材の育成を強化することが喫緊の課題になっていると痛感しております。そうした状況の下、一橋大学が新学部・新研究科の設置を通じて進めようとされている人材育成には、大きな期待を持っております。

一橋大学は、これまで市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもと日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献されてきたと承知しております。社会科学の歴史と実績に基づく強固な教育研究基盤がある一橋大学であるからこそ、データサイエンスの要素が加わることで、社会経済の要請の隅々にまで応えることのできるソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設されることと期待し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和４年１月１８日

独立行政法人経済産業研究所
所長
森川正之

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部および
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する推薦書

一橋大学（貴学）のソーシャル・データサイエンス学部・研究科に関する設置構想を支持し、推薦致します。

近年、大規模かつ多種多様なデータの蓄積が、計算機の能力向上や機械学習をはじめとするデータ・サイエンス技術の発展とあいまって、社会の幅広い分野に大きな革新をもたらしています。日本銀行金融研究所においても、近年、機械学習やテキスト解析、AI といったデータ・サイエンスの手法を用いた研究に重点を置いており、これまでにも多くの研究成果を挙げてきました。

デジタル化の進展をはじめ社会経済の変化が激しい中にあって、データ・サイエンスの手法を駆使した分析を行うことは、幅広い分野・業界において、今後益々重要となっていくと考えられます。当研究所としても、データ・サイエンスの手法は、経済ファイナンス分野のみならず、情報セキュリティ分野、歴史研究分野などで幅広く活用できるため、貴学においてそのスキルを習得した人材を育成されることは、人的交流や研究協力などの面で非常にメリットが大きいと考えております。

その意味で、貴学において、データ・サイエンスの基礎を習得するソーシャル・データサイエンス学部、より高度なスキル習得を行うソーシャル・データサイエンス研究科を設置され、人材養成を行われることに、当研究所として大きな期待をしております。また、設置された場合には、講師派遣などの面で、協力させて頂く所存です。

もとより、貴学と当研究所においては、古くから金融政策、マクロ経済学、ファイナンスをはじめとする研究分野で様々な意見交換や人材交流を行い、互いの研究水準の向上を実現して参りました。今回のソーシャル・データサイエンス学部・研究科に関する設置構想は、経済社会が益々複雑化する中にあって、研究水準をさらに高め、その知見を世の中に還元していくに当たり、非常に有益であると考えております。

このため、貴学においてソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設され、先進的な教育プログラムが早期に提供されることを強く推薦致します。

令和４年１月２０日

日本銀行金融研究所長

副島　豊

公益社団法人日本経済研究センター
〒100-8066 東京都千代田区大手町 1-3-7
日本経済新聞社東京本社ビル 11 階

国立大学法人一橋大学長　中野聡　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

貴学のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

近年、急速な IT 技術の進展により社会環境が大きく変貌しており、膨大なデータを読み解き社会経済の課題解決力を有する人材の養成が日本の産業競争力強化や社会経済発展のために不可欠の要件であると広く認識されております。

弊所においても、大規模データを解析し、経済予測や政策評価・提言に活用することを喫緊の課題として、令和２年度にデータサイエンス研究室を新設すると同時に、会員企業の若手社員を対象に研修を実施しています。このため研究員の採用に際しても、最新の計量経済学を理解し、高度なプログラミングの技術を備えた学生を求めており、貴学は有力な人材供給先であると期待しています。

このような人材には、ビジネスに役立つデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを活用し社会経済の諸課題を改善・解決・イノベーションできる能力が備わっていることが肝要であると認識しており、貴学が進めようとしている人材養成に大きな期待をしております。

また、貴学におかれましては、これまで市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもとに日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献されてきました。

このように社会科学の歴史と実績に基づく強固な教育研究基盤がある貴学であるからこそ、データサイエンスの要素が加わることで、弊所のみならずビジネス界の要請にも応えることのできるソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設されることと大いに期待し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和 4 年 2 月 9 日

日本経済研究センター
理事長
岩田 一政

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

貴学のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想に関し、当該学部及び研究科の早期設置について、以下のとおり要望いたします。

近年、感染症の拡大もあり、急速な ICT 技術の進展により社会環境は大きく変貌しております。現在および将来の社会経済の課題を解決する政策立案のためには、多種多様なデータを解析し、社会経済政策と結び付けられる人材の養成が急務です。

内閣府においては、経済財政、社会政策（少子化や男女共同参画)、科学技術分野等、制度・政策の企画立案に貢献する知見を実証に基づき提供する政策分析専門家の育成を喫緊の課題と考えており、EBPM(証拠に基づく政策立案)への要請の高まりも踏まえ、政府統計やリアルタイムデータ等の大規模データを適切に扱い政策形成に活用することに取り組める人材を求めています。さらには各分野で、既存のデータの活用や新規データの収集に基づく調査分析を行い、それに基づき自ら政策の企画立案を行える人材の速やかな養成が必要であると考えております。

このような人材には、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを活用し社会経済の諸課題を改善・解決・イノベーションできる能力が備わっていることが肝要であると認識しており、貴学が進めようとしている人材養成に大きな期待をしております。

また、貴学におかれましては、これまで社会科学の総合大学として、また、総合的な研究機関として、日本における政治経済社会の発展に貢献する人材を輩出するとともに、その学識を日本の経済財政政策等の立案の場に生かされてきました。

このような社会科学の歴史と政策立案に対する知見を示してきた実績に基づく強固な教育研究基盤にデータサイエンスの要素が加わることで、より深い見識に至る人材の教育と、時代に見合ったより具体的な政策企画立案につながる研究が示されることが期待されます。これは、日本の政府機関のみならず、産業や公共など我が国経済社会における様々な要請に応えるものと思料いたします。当該学部・研究科が新設されることと大いに期待し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和４年１月２０日

内閣府
経済社会総合研究所所長

井野　靖久

国立大学法人一橋大学長
中野　聡　様

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の設置について

近年、いわゆる EBPM（evidence-based policy making）の考え方を踏まえた政策の企画立案の重要性が増しており、限られた資源を有効に活用し、国民により信頼される行政を展開するためには、行政機関の内外を問わず、政策等に関して調査研究を行う際に、統計データをはじめとする豊富なデータを積極的に利用することが求められています。

当研究所は、政府の基幹統計の一つである法人企業統計を作成する業務を担い、また、近年、統計データや行政データを用いた研究プロジェクトを積極的に推進していますが、こうした業務や研究活動を効果的に進めるためには、データの作成・管理、データに基づく分析、データを用いた分析結果の効果的な活用を行うことができる人材を確保し、育成して活用することが喫緊の課題となっています。

このような人材には、社会科学とデータサイエンスの両方の知識を有し、データを活用して経済に関する諸課題を改善・解決することを提案・実践できる能力が備わっていることが肝要です。このような社会的な要請に対して、データサイエンスの知識を体系的に教育する高等教育機関が未だ限られる中で、貴学が進めようとしているソーシャル・データサイエンス学部及びソーシャル・データサイエンス研究科の設置は、社会において必要とされる人材の養成に、大きな効果を持つものと期待をしています。また、大学卒業レベルの基本的な分析力と課題解決力を有する人材の育成とともに、大学院修士卒業レベルの発展的な分析力や課題解決力を有する人材の不足も大きな問題であり、学部と大学院をあわせて設置することが、社会的に急務であると認識しています。

当研究所は、これまで、財政や国際金融をはじめとする様々な分野において、貴学と積極的に研究活動のための連携を行っており、2018 年 1 月には、貴学の経済研究所との間で覚書を交わしています。社会科学の歴史と実績に基づく貴学の強固な教育研究基盤に基づき、貴学において検討中のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想により、社会科学とデータサイエンスをあわせた実践的な知識を有する人材を育成する先進的な教育研究プログラムが早期に実現されることを期待いたします。

令和 4 年 2 月 7 日

財務省財務総合政策研究所長　栗原　毅　<印>

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

一橋大学（貴学）のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

IT 技術の急速な進展は、金融やファイナンスに強く影響を与えています。IT 技術はますます複雑化し、経済・金融に関する膨大なデータを読み解くために必要な能力は高度化しております。今後の日本のファイナンス研究における国際競争力の強化のためには、この二つの側面の能力をもつ人材の育成が不可欠です。

ファイナンスの学術研究においては、経済指標、証券価格、企業の財務情報などのデータを用いた統計分析の利用が古くから進められてきました。近年では、メディアや SNS で発信される経済・企業情報のテキスト分析、AI や機械学習などの技術を用いた計量分析などの利用が進んでおります。伝統的なデータに加え、こういったオルタナティブデータに新しい情報技術を用いて分析を行うことができる人材が求められております。また、ファイナンス領域においては単に新しい情報技術を利用するだけではなく、データ分析の結果から社会科学に関する知見を読み取る能力が不可欠です。日本ファイナンス学会においても、研究活動の一層の発展と国際競争力の強化のためには、最新の情報技術を駆使するだけではなく、社会科学の視点からデータを読み解くことができる能力の両方をも兼ね備えた研究人材の育成が急務であると考えております。

伝統的な経済・金融データと新しいオルタナティブデータを活用し、ファイナンス領域における諸問題に取り組んでゆく能力のあるファイナンスの実務家・研究者を養成するためには、社会科学とデータサイエンスの知識を融合した教育を行うことが肝要であり、一橋大学（貴学）が進めようとしている人材養成に大きな期待をしております。特に、一橋大学（貴学）におかれましては、社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもとに日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献されてきました。一橋大学（貴学）に社会の要請に応えるソーシャル・データサイエンス学部・研究科を新設し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和 4 年 1 月 22 日

日本ファイナンス学会
会長
井上 光太郎

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

一橋大学（貴学）のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

近年の社会経済環境においては、医療分野におけるエビデンスに基づく医療（Evidence Based Medicine）と同じく、エビデンスに基づく政策立案（Evidence Based Policy Making）など、データの分析に基づく社会経済の課題を解決する能力を持つことが求められています。最近の 5 年間に自然科学の分野では、滋賀大学データサイエンス学部の設置をはじめとした学部・研究科の設置が進められてきていますが、社会科学分野については対応する学部・研究科の設置は十分に進んでいるとはいえません。

日本統計学会においては自然科学分野のみならず社会科学分野の実務家及び研究者も多数在籍しており、社会科学分野の人材育成は喫緊の課題となっています。たとえば近年では、データを活用することによって新たな製品の開発やサービスの提案、政府機関における政策立案、金融機関における商品開発とそのリスク管理、企業経営のコンサルティングにおける経営や業務効率の提案などを、リーダーシップをもって行うことが求められています。またデータ分析を可能にするソフトウェアを駆使するプログラミング技術を習得することや、より高度なデータ分析手法を理解して発展させることのできる人材も求められており、早急にその需要に対応する人材の養成を進めることが日本統計学会にとっても肝要であると考えます。

このような社会経済の課題に対応できる人材育成のためには、社会科学における活用に焦点を合わせたデータサイエンスの教育と研究の強力な推進が必要です。貴学がソーシャル・データサイエンス学部・研究科において進めようとしている教育・研究は、社会経済における喫緊の課題に対する解決能力を持つ人材を育成するものであり、その重要な責務の遂行が速やかに行われることを期待しています。

また貴学におかれましては、これまで社会科学の総合大学として、多くの優秀な人材を輩出し我が国の政治経済社会の発展に貢献されています。その研究と教育の礎に、データサイエンスを融合させることで我が国の社会経済のさらなる発展に貢献することができると確信し、貴ソーシャル・データサイエンス学部・研究科が早期に新設されることを強く要望いたします。

令和　４年　１月　１０日

日本統計学会
会長
樋口知之　<印>

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

一橋大学（貴学）のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

近年、急速なIT技術の進展により社会システム及びそれを取り巻く環境が大きく変貌しており、膨大なデータを読み解き社会経済の課題解決力を有する人材の養成が日本の産業競争力強化や社会経済発展のために不可欠の要件であると広く認識されております。また、そのための政策的手段についても、データ分析に基づく政策決定を行う、エビデンスに基づく科学技術・イノベーション政策の重要性が増しております。

当学会においては、イノベーションの実現に向けた研究調査活動の支援を通じて、産官学の繋がりを重視しつつイノベーションを牽引できる人材の活動の場の創成と研究コミュニティの形成を主要な課題として考えております。
この目的のためには、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを活用し社会経済の諸課題を改善・解決を通じてイノベーションを実現できる能力を有する人材が必要であり、貴学が進めようとしている高度な知識を有する人材養成に大きな期待をしております。
また、イノベーションの推進における研究コミュニティの形成においては、貴学が進める大学院教育を通じて、発展的な分析力や課題解決力を有する人材もその量と質を増強させていく必要があることから、学部のみならず大学院の設置も急務であると考えます。

これまで、貴学におかれましては、市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもとに日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献されてきました。
このように社会科学の歴史と実績に基づく強固な教育研究基盤がある貴学であるからこそ、データサイエンスの要素が加わることで、当社のみならず社会経済の要請の隅々にまで応えることのできるソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設されることと大いに期待し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和 4 年 1 月 11 日

研究・イノベーション学会
会長
菊池　純一

国立大学法人一橋大学長　殿

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部及び
一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科の
早期設置に関する要望書

貴学のソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置構想について、早期に設置いただきますよう、以下のとおり要望いたします。

近年、社会経済政策の分野ではエビデンス・ベースト・ポリシー・メーキング(EBPM)により科学的なデータ分析による証拠に基づいた政策決定の重要性が強く認識されるようになっております。また民間事業においても急速なIT技術の進展により科学的なデータ分析に基づいて事業を推進することが重要となってきました。このため膨大なデータを読み解き社会経済の課題解決力を有する人材の養成が日本の社会経済政策の改善、産業競争力強化や社会経済発展のために不可欠の要件であると広く認識されております。

当学会においてもこのような状況の中で会員の教育・研究成果の社会への還元を推進していくことを喫緊の課題として考えております。このため、会員の研究成果を理解し、また必要に応じて共同研究等で連携し、EBPM や民間事業推進に活用できるような政府機関や民間企業の人材が必要となっていると考えております。また、修士や博士課程でより高度な社会科学やデータサイエンスを学んで、急速に発展している両分野の国際的な動向を踏まえて日本での政策や民間事業の課題のために最先端の研究を自ら実施できる人材の育成が、会員や学会外の学界や社会で必要になっており、修士や博士課程の設置も急務であると考えております。

このような人材には、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを活用し社会経済の諸課題を改善・解決・イノベーションできる能力が備わっていることが肝要であると認識しており、一橋大学（貴学）が進めようとしている人材養成に大きな期待をしております。

また、貴学におかれましては、これまで市民社会の学である社会科学の総合大学として、リベラルな学風のもとに日本における政治経済社会の発展とその創造的推進者の育成に貢献されてきました。

このように社会科学の歴史と実績に基づく強固な教育研究基盤がある貴学であるからこそ、データサイエンスの要素が加わることで、当学会のみならず社会経済の要請の隅々にまで応えることのできるソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設されることと大いに期待し、先進的な教育研究プログラムを可能な限り早期に実現されることを強く要望いたします。

令和　　4年　　3月　　2日

日本経済学会
会長
大垣昌夫

資料３

第４回社会科学の発展を考える円卓会議
（議事録）

日　時：　令和２年７月 29 日（水）15 時 00 分～17 時 00 分
場　所：　遠隔会議（ZOOM）
出席者：　青木委員、大枝委員、佐々木委員、志賀委員、新宅委員、進藤委員、清家委員、中鉢委員、常盤委員、蓼沼委員（議長）
発表者：　渡部敏明一橋大学学長補佐（ソーシャル・データサイエンス研究・教育担当）、小塩隆士一橋大学学長補佐（社会科学高等研究院担当）
欠席者：　三島良直アドバイザー
陪席者：　一橋大学　沼上理事・副学長、蜂谷理事・副学長、山田副学長、長谷川副学長・事務局長、総合企画室

＜議事要旨＞
議題１では、第１期円卓会議のまとめについて報告した。議題２・３では、社会科学の新しい発展方向として一橋大学における取組事例を紹介した。議題２では、蓼沼委員（議長）及び渡部敏明一橋大学学長補佐より、社会科学におけるデータサイエンスの研究・教育及び新学部・研究科の設立構想について紹介した。議題３では、小塩隆士一橋大学学長補佐より、EBPM（エビデンスに基づく政策立案）について紹介した。その後、これからの時代の社会科学の新しい研究と人材育成について議論を行った。

＜主な議論内容＞
（中鉢委員）
一橋大学で新たに設置するソーシャル・データサイエンス学部（以下「新学部」という。）のカリキュラムを検討する際、AI コースと統計コースは一本化することが望ましい。昨今の AI ブームにより、伝統的な統計学を軽視・排除する向きがあるが、それは違う。AI のブームに対して、ツールとしてしっかりとした推測統計学やベイズ統計をやるべき。

（中鉢委員）
データ・デザインとあるが、ここで言うデザインとは。
→（一橋・沼上理事）
デザインとは、(1)社会システムの設計、(2) ユーザー・インターフェイスやユーザー・エクスペリエンスなど、人の心に与える印象の設計（意匠）の両方を指す。

（新宅委員）
・因果関係を立証する方法論の中にランダマイズドテストがあるが、日本はこれの理解があ

まり高くない。例えば、薬やワクチンの有効性を立証する方法。データサイエンスの手法の中に含めるとよいのでは。
・経済統計の速報値と改定値の差異が大きいことに驚いた。経済の動きの速さを考えると、速報値の精度を上げることは非常に重要。

（志賀委員）
・産業界から見ると、文系／理系で学修していることが違うことで様々な支障がある。もちろん専門分野が違うことはよいが、例えば企業でデータサイエンスを使いたいところはマーケティング部門。マーケティングは商学部など文系の分野のため、中にはあまり数学を学んでいないケースもある。高校で文系／理系が分かれていることが日本の問題。その意味で、社会科学の大学でデータサイエンスをやる意義は大きい。
・今回の新型コロナ感染症の対応を見ても、医学・感染症学のみならず、社会科学が考えるべきことが多い。社会科学がデータを分析して社会に伝える役割を担うべき。

（清家委員）
・一橋大学は伝統的に数理・統計の基盤があり、従来からデータに強い大学なので、その一橋にできるデータサイエンスの学部は非常に強力な学部になりうる。
・伝統的な統計学・計量経済学の膨大な蓄積を、最先端のビッグデータ解析にどう反映させるのか、大いに興味がある。
例えば、ビッグデータの解析を行う際、元のデータにバイアスがかかっていることの意味、限界、問題点を理解した上で、データの不偏性をベースに考える伝統的な統計学との関係なども考慮しつつ活用を進められるとよいのではないか。
・EBPM では、「えせエビデンスに基づく政策立案」に騙されないことも重要。政府や政治家の思惑通りのエビデンスを出すような EBPM ではかえって有害だ。
・EBPM でもビッグデータ解析でも、注意すべきは、社会科学のあるべき姿として、学問の立場から批判的視点を保持することではないか。
→（蓼沼議長）
・非常に貴重なご意見。科学的視点を持ってデータサイエンス、EBPM の研究・教育を進めることが大学の役割と心得る。
・データ分析については、課題に応じて様々な手法がある。AI だけでなく、伝統的な統計・計量経済学も含め、柔軟に活用できることが必要。
（一橋・渡部学長補佐）
AI では文字情報や画像も数値化して、データとして活用できる。相互作用により新しいものを築きたい。

（青木委員）

・データサイエンス、EBPM ともに、やっと一橋大学で取り組んでくれるのかという印象。自身が留学していたスタンフォード大学では統計学部があった。学部生向けの統計学入門を受けると、統計の精神が理解でき、興味が持てる。新学部でも基礎の入門のところに力を入れて、統計の興味・理解を深めてもらいたい。
・霞が関でも EBPM を始めているが、評価のための評価になってしまう部分もあり、政策立案に辿り着く前に疲弊してしまう。学生には、EBPM がよりよい政策のためのものであるというエールを送り続けてほしい。
→（一橋・渡部学長補佐）
入門科目では基礎から教え、興味を持って専門科目を学べるようなカリキュラムを作りたい。
→（一橋・小塩学長補佐）
「アカウンタビリティー（説明責任）」が重要と考えている。将来世代に対して、政策を作った根拠を示す必要がある。先ほどの清家委員のご意見にあった「えせ EBPM」については、我々も注意している。学生が個々の役所の政策を研究テーマにする可能性があるが、その政策をサポートするエビデンスを出すことを目的とするのではなく、その政策の意味や、政策を作る段階での材料を中立的、客観的に導き出すことが重要。
→（蓼沼議長）
EBPM 博士課程プログラムでは、省庁、日銀、シンクタンク等、機関を越えて人々が大学に集まることで、EBPM ネットワークの構築が期待でき、より中立的・科学的な EBPM に貢献できると期待している。

（大枝委員）
新学部設置は非常にタイムリーで大いに期待している。重要なのは開始時からレベルの高い一流の教授陣を配置すること。財政的な問題もあると思うが、学内外から優秀な人材を集めることが重要。
→（蓼沼学長）
現在、この領域は世界的に人材の取り合いとなっている。学内の財政基盤を強化し、また年俸制の導入も進めることで、競争力のあるリクルートを進めたい。

（佐々木委員）
・大学では商学部だったが、統計学に興味を持ち、データサイエンス系のゼミにも在籍した。卒業後、Google 社のデータサイエンスティストのチームでも働いたが、周囲は統計学の修士号・博士号を持つ人ばかり。海外の企業では、統計（データサイエンス）を理解している人間が、会社の重要な意思決定を担っている。
・海外に比べて、日本ではデータや分析に基づいた企業活動が行われていない。そういうことができる人材を育てることが必要。

・一方で、データサイエンティストや理系でAIを勉強してきた人の中で、分析が正しくできないケースもある。基本的なバイアスや、データをしっかりと見れば自明であることを考慮できていない。新学部では、データとの向き合い方をしっかりと学べるとよい。
・コンピューターサイエンスを4年やってもプログラミングを書けない人もいる。重要なのは講義だけではなく、学ぶことに能動的に挑戦する環境があるか、周囲に意見を聞ける人がいるか。アメリカにデータサイエンス系学部の連合のNPOがあり、学生に対して世の中に貢献できるようなプロジェクト課題を提供している。カリキュラムだけではなく、学生が能動的に分析能力を発揮して課題に挑戦できるコミュニティーになるとよい。
・データサイエンスでは、ベースとなる数学が重要。基礎を教えることにも注力してほしい。教育の質を上げることも重要。
・EBPMは、大学教育・研究の質の向上に関しても活用できるとよいのでは。
→（蓼沼議長）
新学部・研究科ではPBL型授業（Project-based Learning：課題解決型学習）も重視している。企業などの協力も得て、学生が実際に起きている生の課題に接し、現場の人たちとも交流しながら解決する経験をすることで、柔軟に対応できる力を養いたい。
→（一橋・渡部学長補佐）
データを見ずに、ツールに当てはめて考える学生は多いので、データの特徴を掴むところから学ばせたい。

（常盤委員）
・一橋大学は日本の社会科学における一つの中心を成しており、その大学でソーシャル・データサイエンス学部を設置する意義を考えるべき。学長のプレゼン資料にも「新たな社会科学の創造」とある。現在、社会や経済が構造的に変化しようとしている。研究の方法や学問のスタイルにも影響を与えるのではないか。新学部が、一橋の既存の4学部で積み上げた学問と融合することで、どういう新しい学問を作り出すのかという点が重要。社会科学の一翼を担う学部となることを期待している。
・データサイエンス関係の授業科目のボリュームが必要という事情も分かるが、既存の社会科学と融合して、新しい学問をどう作るのかを示していってほしい。
→（蓼沼議長）
社会科学の基盤があるという強みを生かすことが重要と認識している。新学部において基礎となる分野の専門家は必要であるが、新学部と既存学部の間で活発に交流できる仕組みを考えたい。
→（一橋・渡部学長補佐）
インターフェイス科目を活用して、既存学部との連携を強化する。

（進藤委員）

・一橋大学が商法講習所から始まり、商・経済・法・社会と分野を広げ、データサイエンス分野に乗り出すことは非常に画期的。ただ、データサイエンスではスキルやツールという要素が必要となる点は承知しているが、社会科学の大学でやるからには、社会の問題やビジネスの効率性等への問題意識が根底にあって、その解決のツールのためにデータサイエンスを身に付けるという認識を持ってほしい。
・どういう高校生がほしいのか。コンピューターやシステムが好きというだけではだめ。学生が社会課題を見つけることが重要。何のためにデータサイエンスを使うのかという観点を大事にしてほしい。
→（蓼沼議長）
社会科学では規範論も重要であるとのご意見と理解した。まず、社会的なゴールがあって、それに対する最善の手段を科学的に分析して導くことが科学のベースである。現在は、膨大なデータが活用可能となり、その手法が拡大している。新学部を大学に開設する意義は、最適手段を見出す手法を開発・応用することだが、ゴール自体が重要であることは常に意識すべき。
→（一橋・沼上理事）
理系寄りの学生が増えると予想している。理系でも社会に対する問題意識はある。入学後にいかに社会科学の面白さを伝えることができるかが、この学部の成否を分ける。

（中鉢委員）
・企業では、以前から、提案を行うためにデータやエビデンスが求められる。それを専門の学部でやることへの違和感は多少あるが、時代の要請に応じて人材を育成することは賛成。
・ソーシャル・データサイエンスの「ソーシャル」を無視してはいけない。この学部の卒業生はデータサイエンティストになるというよりは、日本の社会科学を担う基幹人材として、理系人材と補完しながら活躍するのでは。
・二刀流が先端的でありうるかという点は意識しておく必要がある。例えばバイオの世界でも、生命科学の専門家と数学者が分業して取り組んでいる。
・大学でやることの意義は大きく、他の大学にも波及していくだろう。AI 人材の育成を目指す学部は増えているが、他とは一味違う学部となることを期待している。
→（蓼沼議長）
一橋大学の持つ社会科学の強みと基盤の上に、新しい研究・教育の地平を開いていく。

（蓼沼議長）
本日は、現代の社会と科学技術の状況を踏まえて、日本の社会科学がどのような方向に発展していくべきかという点で非常に有益な意見をいただいた。一橋大学の新学部・研究科構想にも役立てたい。

（その他）

・本日の議事録をとりまとめの上、一橋大学 HP で掲載する旨、了承された。

・蓼沼議長より、本年８月末日を以て一橋大学長を退任する旨報告があり、以降の円卓会議は中野聡次期学長の下で開催するとの紹介があった。

資料４

一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部

ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）

一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科

ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）

（令和５年４月開設予定・設置構想中）

「設置構想に係る人材需要アンケート調査」報告書

令和３年 11 月 17 日

株式会社高等教育総合研究所

目次

1　調査の概要

◆ 調 査 目 的 ：　本調査は、一橋大学が令和５年４月に設置を構想している「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」の卒業生及び、「ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データ専攻（仮称）」の修了生の就職におけるニーズを、大学外の公正な第三者機関により、アンケートを用いて測ることを目的とする。

◆ 調 査 期 間 ：　令和３年８月～令和３年９月

◆ 調 査 対 象 ：　一橋大学が令和５年４月に設置を構想中の「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」の卒業生、及び「ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」の修了生の採用が期待される企業や機関 1,837 件を対象とする。内訳は以下の通りである。

①卒業・修了後の進路として想定する業種で、東証一部に上場している企業	金融・保険業	235
	運輸業	66
	製造業	800
	放送・出版業	13
	IT・情報通信業	195
	広告業	17
	コンサルティング業	21
	卸売・小売業	331
②起業 10 年以内で東証マザーズ、JASDAQ に上場している企業		102
③卒業・修了後の進路として想定する官公庁・省庁外郭団体など		15
④既設学部の卒業生、既設研究科の修了生が就職した企業・機関		42

※④は平成 28 年～令和 2 年の学部卒業生が多く就職した企業・機関の上位 50 社、修士修了生が多く就職した企業・機関の上位 50 社のリストから、上記①～③と重複した企業・機関を除いたもの。

◆ 調 査 方 法 ： 調査対象とした企業・機関の 1,837 件の採用担当者宛てに、「一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻」の設置構想に係る人材需要アンケート調査の依頼状を送付し、同封の調査用紙への記入、もしくは依頼状に記載したアンケート回答サイトへの入力による回答・返信を求めた。なお、調査票は学部・研究科で同一のものを使用し、問 9～11 で学部卒業生に対する採用意向を、問 12～14 で研究科修了生に対する採用意向を尋ねた。

◆ 調 査 内 容 ： 質問項目は全 15 問とし、主な質問内容は下の通りである。
（問 16 は企業名称を問う質問であるため、集計を省略する）
・回答企業の基本情報
・一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）の卒業生の採用意向（人材需要）
・一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）の修了生の採用意向（人材需要）

◆ 有効回答件数 ： 183 件（配布件数 1,837 件／無効回答件数 0 件／回収率 10.0%）

２　全質問項目の集計結果

3～11 ページは、アンケートで回答を得た 183 件の回答結果に基づく、全質問項目の集計結果である。

※「構成比(%)」はいずれも、少数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

問１　御社の主たる所在地をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比
北海道	2	1.1%	京都府	7	3.8%
青森県	0	0.0%	大阪府	18	9.8%
岩手県	0	0.0%	兵庫県	5	2.7%
宮城県	0	0.0%	奈良県	0	0.0%
秋田県	1	0.5%	和歌山県	1	0.5%
山形県	0	0.0%	鳥取県	0	0.0%
福島県	0	0.0%	島根県	0	0.0%
茨城県	0	0.0%	岡山県	0	0.0%
栃木県	0	0.0%	広島県	3	1.6%
群馬県	2	1.1%	山口県	2	1.1%
埼玉県	4	2.2%	徳島県	1	0.5%
千葉県	2	1.1%	香川県	0	0.0%
東京都	104	56.8%	愛媛県	0	0.0%
神奈川県	6	3.3%	高知県	0	0.0%
新潟県	1	0.5%	福岡県	2	1.1%
富山県	0	0.0%	佐賀県	2	1.1%
石川県	3	1.6%	長崎県	0	0.0%
福井県	3	1.6%	熊本県	0	0.0%
山梨県	0	0.0%	大分県	0	0.0%
長野県	2	1.1%	宮崎県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%	鹿児島県	0	0.0%
静岡県	0	0.0%	沖縄県	0	0.0%
愛知県	12	6.6%	無回答	0	0.0%
三重県	0	0.0%	合計	183	100.0%
滋賀県	0	0.0%			

問 2　御社の業種についてお答えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	農業	0	0.0%
2	林業	0	0.0%
3	漁業	0	0.0%
4	鉱業	0	0.0%
5	建設業	3	1.6%
6	製造業	83	45.4%
7	電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.5%
8	運輸・通信業	14	7.7%
9	卸売・小売業、飲食店	33	18.0%
10	金融・保険業	14	7.7%
11	不動産業	1	0.5%
12	サービス業	16	8.7%
13	公務（他に分類されないもの）	5	2.7%
14	その他	13	7.1%
	無回答	0	0.0%
合計		183	100.0%

問 3　御社の従業員数（正規社員数）についてお答えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	50 名未満	1	0.5%
2	50 名以上 100 名未満	5	2.7%
3	100 名以上 500 名未満	40	21.9%
4	500 名以上 1,000 名未満	42	23.0%
5	1,000 名以上 5,000 名未満	67	36.6%
6	5,000 名以上	28	15.3%
	無回答	0	0.0%
合計		183	100.0%

問 4　このアンケートにご回答頂いている方の人事採用への関与度をお教えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用の決裁権があり、選考にかかわっている	20	10.9%
2	採用の決裁権はないが、選考にかかわっている	154	84.2%
3	採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある	6	3.3%
	無回答	3	1.6%
合計		183	100.0%

問 5　御社の過去3年間の平均的な正規社員の採用数について、お教えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	1～4 名	5	2.7%
2	5～9 名	14	7.7%
3	10～14 名	27	14.8%
4	15～19 名	13	7.1%
5	20～49 名	58	31.7%
6	50 名以上	66	36.1%
7	過去 3 年間に正規社員は採用しなかった	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
合計		183	100.0%

問 6　新型コロナウイルス感染症の影響がなかった場合の、平均的な採用数がわかればお教えください（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	1～4 名	5	2.7%
2	5～9 名	14	7.7%
3	10～14 名	18	9.8%
4	15～19 名	16	8.7%
5	20～49 名	63	34.4%
6	50 名以上	62	33.9%
7	わからない	5	2.7%
	無回答	0	0.0%
合計		183	100.0%

問 7　御社では、大学卒以上の学歴を持つ人材を採用する場合、どのような系統の学問を修めた人物を積極的に採用したいとお考えですか（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 183 件の延べ数であり、比率は 183 件中で回答数が占める割合

番号	選択項目	回答数	比率
1	文・人文学	26	14.2%
2	社会・国際学	41	22.4%
3	法・政治学	48	26.2%
4	経済・経営・商学	66	36.1%
5	教育学（教員養成・総合科学）	16	8.7%
6	理学	59	32.2%
7	工学	88	48.1%
8	農・水産学	25	13.7%
9	医・歯・薬・看護・保健学	10	5.5%
10	生活科学	8	4.4%
11	総合・環境・人間学	18	9.8%
12	情報学	74	40.4%
13	芸術・スポーツ科学	8	4.4%
14	その他	2	1.1%
15	学部や学問系統にはこだわらない	92	50.3%
	無回答	0	0.0%

問 8　一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）には、以下のような特色があります。この中から、特に魅力的だと感じる特色をお選びください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

※複数回答項目のため、回答数は 183 件の延べ数であり、比率は 183 件中で回答数が占める割合

番号	選択項目	回答数	比率
1	社会科学とデータサイエンスを融合した知識を身に付けられる	100	54.6%
2	統計学や情報学・人工知能などに基づいたデータサイエンスの知識を身に付けられる	140	76.5%
3	経営学、経済学、法学、社会学など既存の社会科学に横断的な知識を身に付けられる	85	46.4%
4	現在の社会における課題をデータ分析を利用して解決する方法を身に付けられる	135	73.8%
5	実際の企業や政府機関とのプロジェクトに基づいた演習に参加できる	75	41.0%
6	少人数での演習を通じて独自の問題意識に基づいた卒業論文・修士論文を執筆する	35	19.1%
7	なし	2	1.1%
	無回答	0	0.0%

問 9　一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思いますか（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	85	46.4%
2	採用を検討したい	95	51.9%
3	採用しない	3	1.6%
	無回答	0	0.0%
合計		183	100.0%

問 10　問 9 で「採用したい」または「採用を検討したい」とご回答された方に質問します。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

※問 9 で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 180 件を対象とする

番号	選択項目	回答数	構成比
1	1 人	15	8.3%
2	2 人	19	10.6%
3	3 人	6	3.3%
4	4 人	1	0.6%
5	5～9 人	6	3.3%
6	10 人以上	3	1.7%
7	人数は未確定	130	72.2%
	無回答	0	0.0%
合計		180	100.0%

問 11　問 9 で「採用しない」と回答した方にお伺いします。どのようなことでも構いませんので、回答の理由をお書きください。

※固有名詞については●●の形で伏せている

※参考のため、問 2 で尋ねた回答企業・機関の業種を記載した

業種	記述内容
製造業	必要とする専門分野の業務経験者の採用を基本としており、新卒採用はしていない。
卸売・小売業、飲食店	当社は高卒～●●以下の学歴の人が多く、また小売なので生徒自身の希望に合わないと思う（よほど車が好きとかでない限り）。
建設業	新卒で採用するには優秀な人材すぎて、教育体制が十分に確保できず、能力を持て余してしまう可能性がある。年月が経ち、会社の経営に関する問題解決のリーダーとして中途採用となる可能性はあるかもしれない。

問 12　一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称）を修了した学生を採用したいと思いますか（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	74	40.4%
2	採用を検討したい	103	56.3%
3	採用しない	6	3.3%
	無回答	0	0.0%
合計		183	100.0%

問 13　問 12 で「採用したい」または「採用を検討したい」とご回答された方に質問します。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）。

※問 12 で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 177 件を対象とする

番号	選択項目	回答数	構成比
1	1 人	20	11.3%
2	2 人	11	6.2%
3	3 人	3	1.7%
4	4 人	1	0.6%
5	5～9 人	6	3.4%
6	10 人以上	2	1.1%
7	人数は未確定	134	75.7%
	無回答	0	0.0%
合計		177	100.0%

問 14　問 12 で「採用しない」と回答した方にお伺いします。どのようなことでも構いませんので、回答の理由をお書きください。

※固有名詞については●●の形で伏せている

※参考のため、問 2 で尋ねた回答企業・機関の業種を記載した

業種	記述内容
製造業	文系（または文系に近い学問）の場合、学部卒で勤務いただいても職場内にて通用するため。
	製造業の当社では、工場の生産効率向上の為に各種データを活用してプロジェクト等で検証を進めており、情報学や統計学の知識を有する人材の確保は必要であるが、情報システム部門では、外部業者に委託して共同で取り組む業務も多く、現時点ではそこまでの専門知識を必要としていないため。
	必要とする専門分野の業務経験者の採用を基本としており、新卒採用はしていない。
卸売・小売業、飲食店	当社は高卒～●●以下の学歴の人が多く、また小売なので生徒自身の希望に合わないと思う（よほど車が好きとかでない限り）。
運輸・通信業	院卒採用を行っていない為（処遇規定がございません）。
建設業	新卒で採用するには優秀な人材すぎて、教育体制が十分に確保できず、能力を持て余してしまう可能性がある。年月が経ち、会社の経営に関する問題解決のリーダーとして、中途採用となる可能性はあるかもしれない。

問 15　設置構想中の一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／大学院ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※参考のため、問 2 で尋ねた回答企業・機関の業種を記載した

業種	記述内容
製造業	社会科学の横断的な知識が中途半端なものとならないようにしていただきたい。データサイエンスの知識は、必ず今後の企業で必要となると確信しているが、幹部層をはじめ、多くの人間が理解しているとは言い難い。大学側からも、新設学部で学べる知識が、企業のどういったところで活かせるかをアピールしていただけると幸いです。上記と被るが、学部・修士で学ぶ者について、その学業成果や企業、政府機関とのプロジェクト成果を広報いただきたい。企業との連携について、興味関心があることから、実施、連携先企業募集の際は情報提供いただきたい。
	専門家のニーズが今後高まってくる分野だと考えます。
	現在、学生が社会で求められるニーズを学内で学ぶことができるきっかけ作りを行う学部であってほしいと考えております。
	当社は電気系メーカーにつき、比率的には電気・電子・情報：文系＝3：2 程度の採用人数となります。ただ、文系職といえど、DX に対する知識や業務の DX 化など、文理の幅は小さくしていかねばと考えています。現時点で貴学がどの程度のデータサイエンスのスキルを持った人材育成を目標とされているのかは分かりかねますが、大変期待しております。
	弊社では、社内研修の一つとして、データサイエンス研修を行っております。統計学や分析に対するアプローチの基礎がある上で、社会に出ることは、強みになると思います。在学中に、基礎固めをしていただくことを期待します。
	データサイエンスが民間企業でどのように活かされるのかの情報発信など。
	今まではデータを扱うのは理系、情報系のイメージだったため社会科学の視点で扱える学生は重宝されると思います。
	データ、数字にただ強いだけではなく、データと向き合って自分で良し悪しを検証したり、科学的根拠を用いて解決策や改善策を提案できる思考力の養成を期待しています。
	データサイエンスに基づいて企業課題を洞察しイノベーションを起こしていける人材の育成に期待しています。
	理論だけでなく、より実践的な知識・経験を得られる教育体系として欲しい。
	基本的なプログラミング知識を習得しておいてほしい。
	資料を拝見し、弊社の事務職、技術職の双方で活躍していただくことができる人材がいらっしゃるのではないかなと思いました。
	知識習得はもちろんのこと、コミュニケーションスキルも学ぶ機会を設けて頂けると幸いです。
	経営やマーケティングに注力しつつも、基本的な統計学の原理原則を深く理解し、自ら活用できる人材を多く輩出されることを期待します。AI 使えます、Python いじれますだけの学生さんはもったいないです。
	企業を運営していくうえでデータは切り離すことができず、その重要性はより増していくかと存じます。貴学のお取り組みに大変期待しております。
	情報セキュリティや社内ネットワーク構築のプロが育つことを期待します。社内の製造が IT 化され、物流や工程などまだまだ定量化されていない面もございますので、統計的データや部門間ネットワークを形成できるような人材が育つことを期待します。

製造業	ビッグデータを AI などの技術を用いデータ解析し、課題の発見とソリューションを導き出せる人材の育成に期待する。
	データサイエンスについては今後も必要とされる能力と思いますので、そういった知識を身に付けられる学部は非常に魅力的であると感じます。また、資料を拝見する限り文理融合の学部とお見受けしておりますので、幅広い教養を身に付けることができる点も魅力的であると感じます。
	社会情勢に合わせた新たな取り組みに期待しています。
	データサイエンス分野の専門性の深化を期待しています。
	近年、データサイエンス分野の知見や能力は公共、民間を問わず、広く社会に求められていると認識しています。一橋大学のような超一流大学が、今回のような有用な新学部、新研究科を設置することに大いに期待しています。卒業後の進路の面はもちろんのこと、新学部や新研究科の共同研究でも引く手あまたかと存じます。
	データサイエンスを様々な分野に活用できる学生の輩出を期待します。
	情報技術分野だけではなく、社会学科の分野も学習できるとのことで、幅広い知識を持った人材が育つことを期待します。
卸売・小売業、飲食店	データ分析や数字に強い等、どの職業であっても大切だと感じます。DX 等、これから必要不可欠になるものなので必要な知識だと思う。
	他の学問との融合は新しい価値を生み出すきっかけだと思うのでがんばってください。
	特定の事象を客観的に分析する際の手段として統計学的な処理を行ったとき、その結果の解釈に主観を許さず、あくまでも目的となる客観的な分析を追求できる思考力が養われることを期待しています。
	これからの社会のニーズを捉えた分野だと思います。常に最先端の学びをした学生の方が社会に入って下さることは、とてもありがたいです。期待しております。
	情報技術の発展に伴い、膨大なデータを人工知能などを駆使して分析することで、経営課題や様々な問題の解決方法を見出せる時代になってきていますので、在学中にそのような分野を学べることで、社会人になった際、率先力になるのではないかと思い期待しております。
	日本並びに企業の競争力向上には不可欠の取組みであり、高い専門知識を有する方が社会に輩出されることは大変喜ばしく思います。ただ、自社は高度な学問を修めた方に対する処遇・業務が調っておらず、企業側も相応の努力が必要だと感じましたが、どのような対応がベストなのか、解が見付からないのが正直なところです。
運輸・通信業	弊社では、DX の推進を行っておりますのでそのような知識・経験がある学生の採用を検討しております。
	多角的な視点で物事を考えることの出来る学生の育成を期待いたします。今後とも宜しくお願いいたします。
	今後、物流業界はビジネスモデルが大きく変化していくと思われます。データや統計資料を分析し、新たなビジネスモデルの創出の構築を考えていく上で、御大学の新学部には大きく期待したいと思います。
	多くのデータサイエンティストを社会に送り出して頂くことを期待しています。
	当社は情報サービス業の会社ですが、これからの情報化社会において、データサイエンスの知識は益々重要視されるものと考えます。当社では幅広い業界のシステム開発を行っており、社会科学とデータサイエンスの知識の融合の必要性を日頃より身に染みて感じております。そうした視点で体系的に学ばれた方が現実社会で活躍されることを大いに期待します。

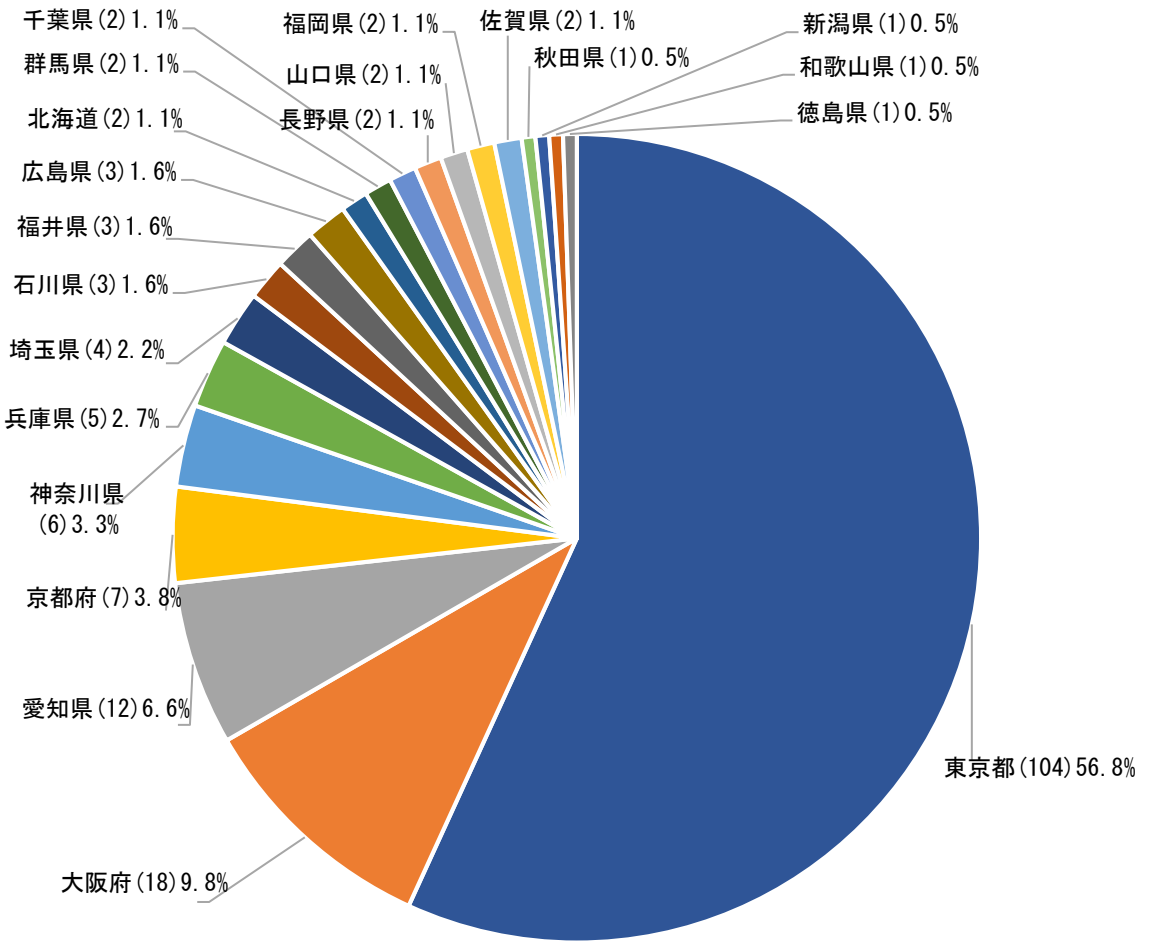
金融・保険業	Excel や PP のスキルも高めていけるようなカリキュラムがあれば、ビジネスでも活かされると思います。
	当行では、御校が計画中の学部を卒業した学生を採用し、専門的なキャリアパスを作り活躍し続けてもらうことを期待しています。当行が必要としている知見を持った学生が多く在籍することになると思いますので、とても期待しています。
サービス業	当社はシステムエンジニアが 95%を占める会社なので情報系の技術を学び、PBL 演習を通して実践的な学びにより論理的能力を磨いた学生を歓迎します。またチームでの演習を通じてマネジメント力の礎を築いていただけると更に魅力的な人材になると期待しています。
	なかなか新卒採用でデータサイエンスのスキルを持った学生の採用は難しくビジネスの即戦力になり得るという点で期待しております。
	昨今の異常気象に伴う災害対策として、ビックデータを活用した防災減災への興味関心を醸成してもらえると、弊社としては嬉しいです。
	学んだ技術を生かして、集客や新しいビジネス展開に貢献してもらえること。
公務（他に分類されないもの）	経済や金融市場を分析する業務等において、社会科学とデータサイエンスの両方に精通する人材の獲得・育成が急務となる中、このような学部・専攻の新設は時宜にかなうものであり、期待は非常に大きい。卒業・修了生の採用については、上限を設けず、積極的に検討したい。
建設業	情報・AI、プログラミング等の基礎知識はもちろん、その知識と課題解決の為の発想力等、コンサルティングの素養は、弊社もですが、社会的なニーズも高いと思われます。
	社会科学とデータサイエンスの知識をつけた学生、現代社会の課題を解決できる学生を期待（採用）したいです。
その他	データを、単なる数字の集計と捉えるのではなく、そこから見える課題や解決の糸口を意識しながら読み解くこと。また、そこから導き出されたエビデンスをしっかり社会に伝えていく、そして行動を変えていくところまで意図して取り組んでもらえる人財を、ぜひ育成していただきたいと願っております。よろしくお願いいたします。
	データ分析をし、結果を出すだけではなくて、出した結果に対してどう動くかを考えられる学生さんになるのならば、期待が大きいです。
	時代の流れにあった知識を学ぶことができ、今から卒業生が楽しみです。データは読み解くだけでなく、どう活かすかまでが大切なので、活用の仕方まで考えることができるようになると素晴らしいと思います。
	私どもでは 2020 年にデータサイエンス研究室を新設し、企業から派遣された研修生向けにデータサイエンスのコースも開講し、データサイエンスの研究や指導ができる人材が今後必要となります。一橋大学様には平素より大変お世話になっており関係も深いことから、新学部・新研究科との交流や採用などにとても期待しております。

3　集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数第二位を四捨五入。よって、合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

● 本学がある東京都を所在地とする企業・機関が 56.8%

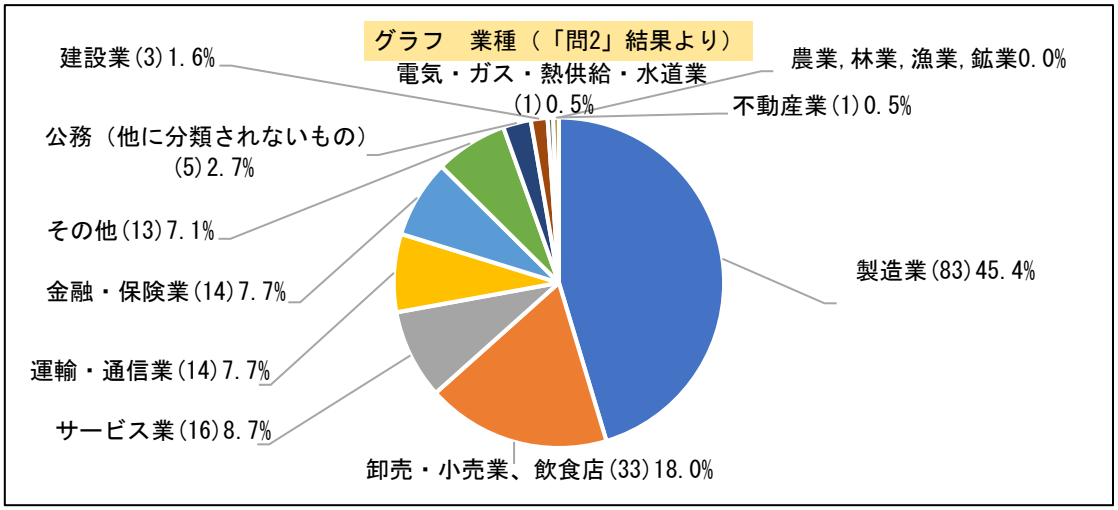
問 1 の所在地についての質問では、183 件の回答を得た。回答は多い順に「東京都」が 104 件（56.8%）、「大阪府」が 18 件（9.8%）、「愛知県」が 12 件（6.6%）、「京都府」が 7 件（3.8%）、「神奈川県」が 6 件（3.3%）、「兵庫県」が 5 件（2.7%）、「埼玉県」が 4 件（2.2%）、「石川県、福井県、広島県」が 3 件（1.6%）、「北海道、群馬県、千葉県、長野県、山口県、福岡県、佐賀県」が 2 件（1.1%）、「秋田県、新潟県、和歌山県、徳島県」が 1 件（0.5%）となった。



グラフ　主な所在地域（「問1」結果より）

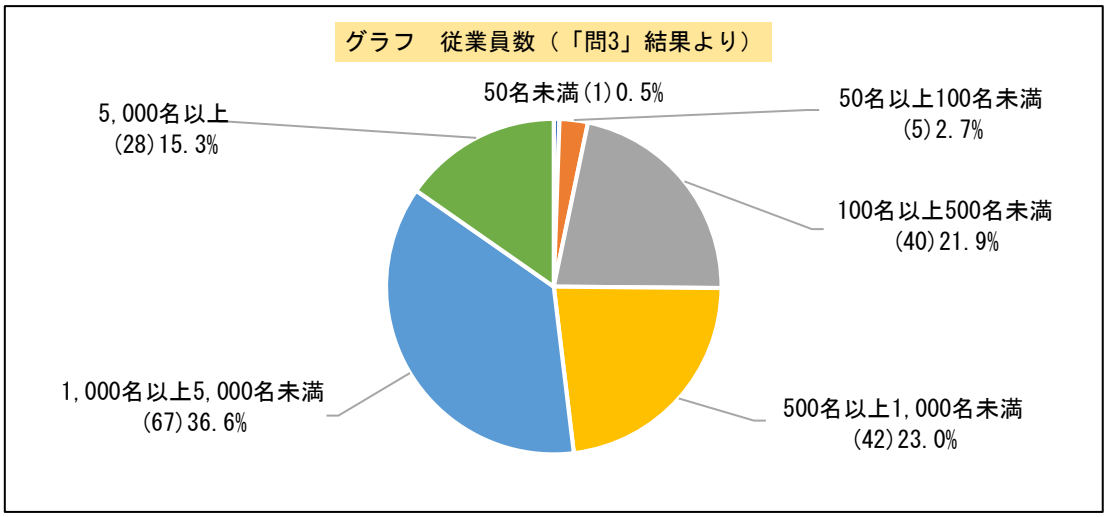
● 業種は「製造業」が 45. 4%、「卸売・小売業、飲食店」が 18. 0%

問 2 の業種についての質問では、183 件の回答を得た。回答は多い順に「製造業」が 83 件（45. 4%）、「卸売・小売業、飲食店」が 33 件（18. 0%）、「サービス業」が 16 件（8. 7%）、「運輸・通信業」・「金融・保険業」が 14 件（7. 7%）、「その他」が 13 件（7. 1%）、「公務（他に分類されないもの）」が 5 件（2. 7%）、「建設業」が 3 件（1. 6%）、「電気・ガス・熱供給・水道業」・「不動産業」が 1 件（0. 5%）となった。



● 従業員数の規模「1,000 名以上 5,000 名未満」の企業・機関が 36. 6%

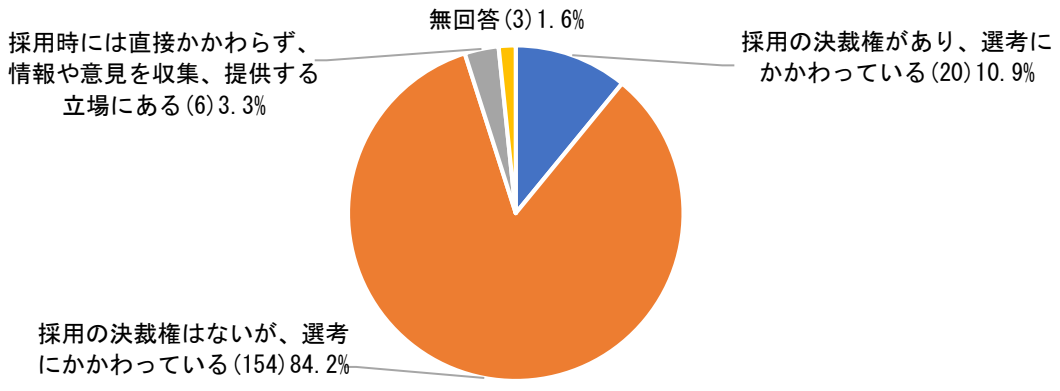
問 3 の従業員数（正規正社員）についての質問では、183 件の回答を得た。回答は多い順に「1, 000 名以上 5, 000 名未満」が 67 件（36. 6%）、「500 名以上 1, 000 名未満」が 42 件（23. 0%）、「100 名以上 500 名未満」が 40 件（21. 9%）、「5, 000 名以上」が 28 件（15. 3%）、「50 名以上 100 名未満」が 5 件（2. 7%）、「50 名未満」が 1 件（0. 5%）となった。



● 「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」方からの回答が 84. 2%

問 4 の回答者の人事採用への関与度についての質問では、180 件の回答を得た。回答は多い順に「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」が 154 件(84. 2%)、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」が 20 件(10. 9%)、「採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある」が 6 件(3. 3%)からの回答となった。

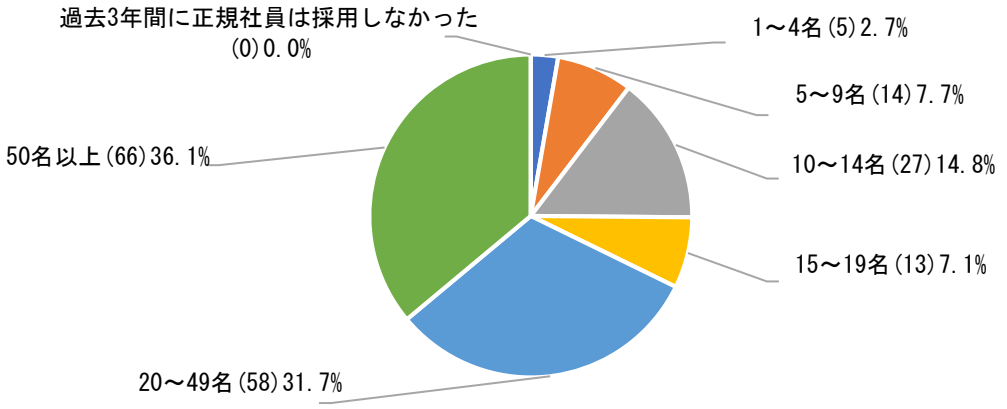
グラフ　回答者の人事採用への関与度（「問4」結果より）



● 過去 3 年間の正規社員採用数「50 名以上」が 36. 1%

問 5 の過去 3 年間の平均的な正規社員の採用数についての質問では、183 件の回答を得た。回答は多い順に「50 名以上」が 66 件(36. 1%)、「20～49 名」が 58 件(31. 7%)、「10～14 名」が 27 件(14. 8%)、「5～9 名」が 14 件(7. 7%)、「15～19 名」が 13 件(7. 1%)、「1～4 名」が 5 件(2. 7%)、「過去 3 年間に正規社員は採用しなかった」が 0 件となった。

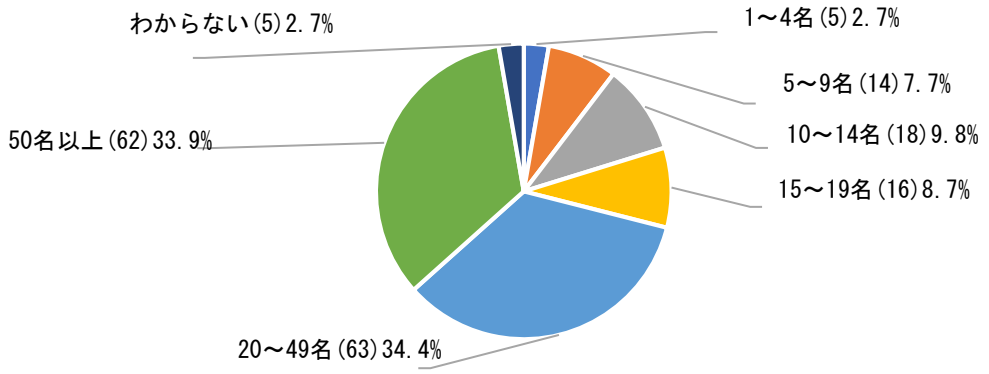
グラフ　正規社員の平均採用数（「問5」結果より）



● 新型コロナの影響がなかった場合の正規社員採用数は「20～49 名」が 34. 4%

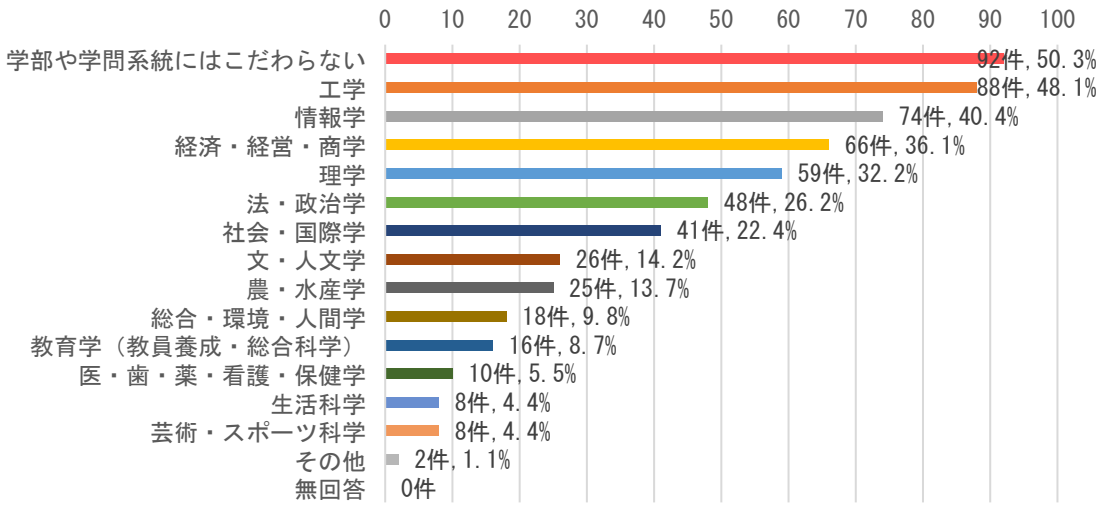
問 6 の新型コロナウイルス感染症の影響がなかった場合の、平均的な正規社員の採用数についての質問では、183 件の回答を得た。回答は多い順に「20～49 名」が 63 件(34. 4%)、「50 名以上」が 62 件(33. 9%)、「10～14 名」が 18 件(9. 8%)、「15～19 名」が 16 件(8. 7%)、「5～9 名」が 14 件(7. 7%)、「1～4 名」が 5 件(2. 7%)、「わからない」が 5 件となった。

グラフ　新型コロナウイルス感染症の影響がなかった場合
正規社員の平均採用数（「問6」結果より）



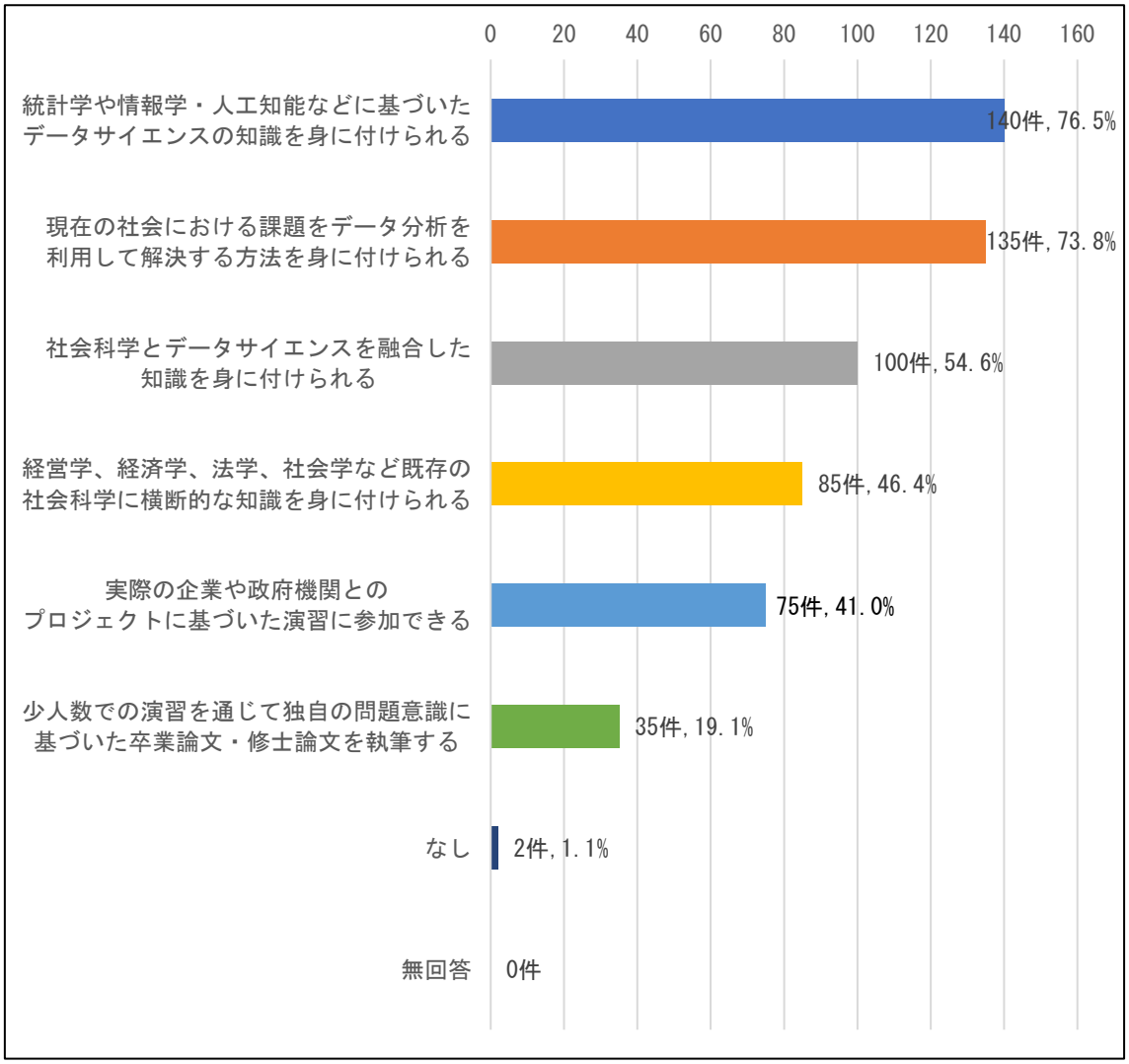
● 人材採用に際しては「学部・学問系統にはこだわらない」が最多

問 7 の積極的に採用したいと考える「学問系統」の質問（複数回答）では、回答の多い順に「学部や学問系統にはこだわらない」が 92 件(50. 3%)、「工学」が 88 件(48. 1%)、「情報学」が 74 件(40. 4%)、「経済・経営・商学」が 66 件(36. 1%)、「理学」が 59 件(32. 2%)、「法・政治学」が 48 件(26. 2%)、「社会・国際学」が 41 件(22. 4%)、「文・人文学」が 26 件(14. 2%)、「農・水産学」が 25 件(13. 7%)、「総合・環境・人間学」が 18 件(9. 8%)、「教育学（教員養成・総合科学)」が 16 件(8. 7%)、「医・歯・薬・看護・保健学」が 10 件(5. 5%)、「生活科学」・「芸術・スポーツ科学」が 8 件(4. 4%)、「その他」が 2 件の回答となった。



● 学部・研究科の 6 つの特色、それぞれに魅力を感じる結果

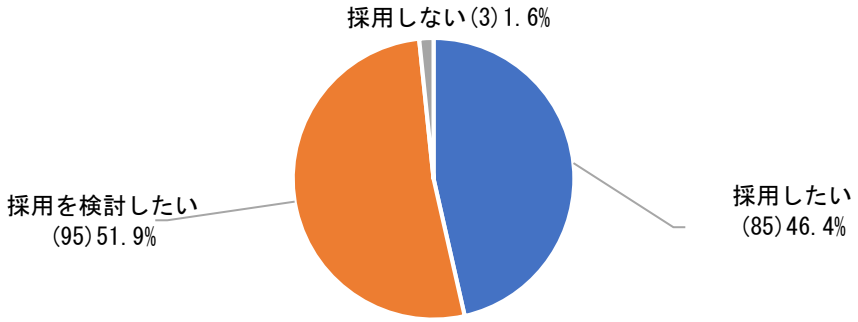
問 8 の特に魅力的だと感じる特色についての質問（複数回答）では、回答の多い順に「統計学や情報学・人工知能などに基づいたデータサイエンスの知識を身に付けられる」が 140 件(76.5%)、「現在の社会における課題をデータ分析を利用して解決する方法を身に付けられる」が 135 件(73.8%)、「社会科学とデータサイエンスを融合した知識を身に付けられる」が 100 件(54.6%)、「経営学、経済学、法学、社会学など既存の社会科学に横断的な知識を身に付けられる」が 85 件(46.4%)、「実際の企業や政府機関とのプロジェクトに基づいた演習に参加できる」が 75 件(41.0%)、「少人数での演習を通じて独自の問題意識に基づいた卒業論文・修士論文を執筆する」が 35 件(19.1%)、「なし」が 2 件(1.11%)の回答となった。



● 学部卒業生に対し、ほとんどの企業・機関が採用の意欲を示す

問 9 の一橋大学「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」の卒業生の採用意向についての質問では、回答を得た 183 件のうち、「採用したい」が 85 件(46.4%) 、「採用を検討したい」が 95 件(51.9%)と、約 98%が採用の意欲を示した。また、「採用しない」が 3 件(1.6%)であった。

グラフ　学部卒業生の採用意向（「問9」結果より）

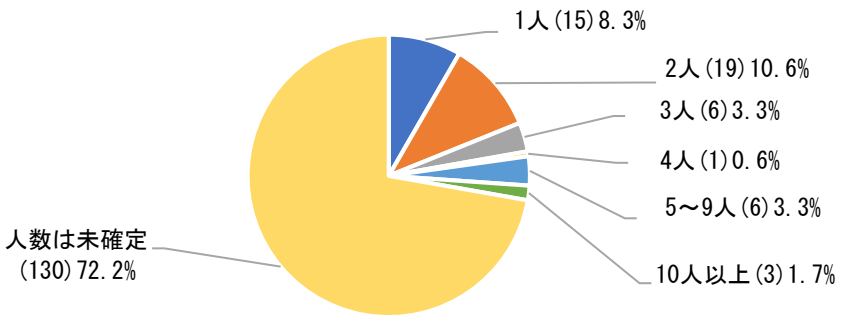


● 学部卒業生の採用可能人数の総和は 265 人

問 10 では、問 9 で「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」卒業生について「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した 180 件に採用可能人数を質問した。結果、「1 人」が 15 件(8.3%)、「2 人」が 19 件(10.6%)、「3 人」が 6 件(3.3%)、「4 人」が 1 件(0.6%)、「5～9 人」が 6 件(3.3%)、「10 人以上」が 3 件(1.7%)、「人数は未確定」が 130 件(72.2%)であった。

採用可能人数は合計 265 人（「5～9 人」は 5 人、「10 人以上」は 10 人、「人数は未確定」は 1 人として集計）となり、一橋大学が構想中のソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）が予定する入学定員 60 人を大きく上回る結果を得られた。

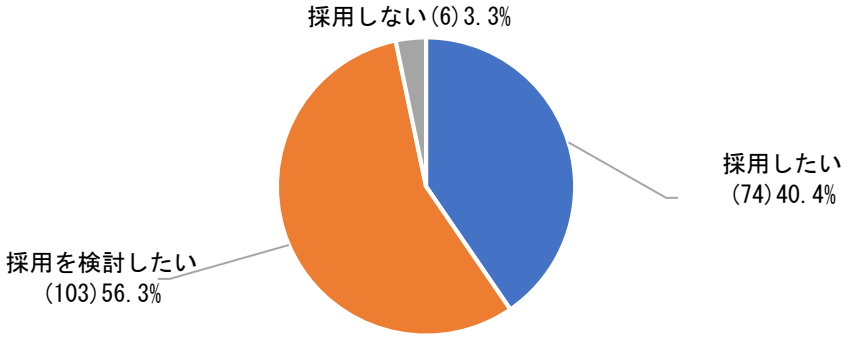
グラフ　学部卒業生の採用可能人数（「問10」結果より）



● 修士課程修了生に対しても、ほとんどの企業・機関が採用の意欲を示す

問 12 の一橋大学大学院の「ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」の修士課程修了生の採用意向についての質問では、回答を得た 183 件のうち、「採用したい」が 74 件(40.4%) 、「採用を検討したい」が 103 件(56.3%)と、約 97%が採用の意欲を示した。また、「採用しない」が 6 件(3.3%)であった。

グラフ　修士課程修了生の採用意向（「問12」結果より）

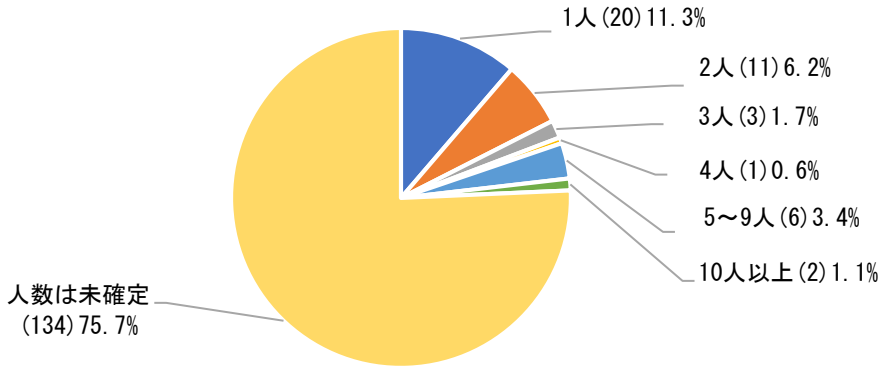


● 修士課程修了生の採用可能人数の総和は 239 人

問 13 では、問 12 の本研究科の修了生の採用の意欲を示した「1. 採用したい」、「2. 採用を検討したい」と回答した 177 件のうち、採用可能人数を問う質問では、「1 人」が 20 件(11.3%)、「2 人」が 11 件(6.2%)、「3 人」が 3 件(1.7%)、「4 人」が 1 件(0.6%)、「5～9 人」が 6 件(3.4%)、「10 人以上」が 2 件(1.1%)、「人数は未確定」が 134 件(75.7%)であった。

採用可能人数は合計 239 人（「5～9 人」は 5 人、「10 人以上」は 10 人、「人数は未確定」は 1 人として集計）となり、一橋大学大学院が構想中のソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）が予定する入学定員 21 人を大きく上回る結果を得られた。

グラフ　修士課程修了生の採用可能人数（「問13」結果より）



４－１　ソーシャル・データサイエンス学部（仮称）集計結果の分析

一橋大学「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」についての、採用の意欲（問 9）と採用可能人数（問 10）のクロス集計の結果は、以下の通りである。

※採用可能人数合計の「5～9 人」は 5 人、「10 人以上」は 10 人、「人数は未確定」は 1 人として集計

選択項目	採用したい		採用を検討したい	
	回答件数	採用可能人数	回答件数	採用可能人数
1 人	6	6	9	9
2 人	13	26	6	12
3 人	5	15	1	3
4 人	1	4	0	0
5 人以上 10 人未満	4	20	2	10
10 人以上	3	30	0	0
人数は未確定	53	53	77	77
合計	85	**154**	95	**111**

上記より、一橋大学が令和 5 年 4 月に設置構想する「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」の卒業生を採用したいと回答した 85 事業所の、採用可能人数を乗じた合計は 154 人、採用を検討したいと回答した 95 事業所の、採用可能人数を乗じた合計は 111 人となった。また、180 事業所が採用の意欲を示し、採用可能人数を乗じた合計は 265 人となった。

これは、一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）が予定する入学定員の 60 人を非常に大きく上回る採用の意欲・人数を示すものであり、人材需要の見通しは問題ないと判断できる。

４－２　ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称）集計結果の分析

一橋大学大学院「ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」についての、採用の意欲（問 12）と採用可能人数（問 13）のクロス集計の結果は、以下の通りである。

※採用可能人数合計の「5～9 人」は 5 人、「10 人以上」は 10 人、「人数は未確定」は 1 人として集計

選択項目	採用したい		採用を検討したい	
	回答数	採用可能人数	回答数	採用可能人数
1 人	10	10	10	10
2 人	6	12	5	10
3 人	2	6	1	3
4 人	1	4	0	0
5 人以上 10 人未満	4	20	2	10
10 人以上	2	20	0	0
人数は未確定	49	49	85	85
合計	74	**121**	103	**118**

上記より、一橋大学が令和 5 年 4 月に設置構想する「一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」の修了生を採用したいと回答した 74 事業所の、採用可能人数を乗じた合計は 121 人、採用を検討したいと回答した 103 事業所の、採用可能人数を乗じた合計は 118 人となった。また 177 事業所が採用の意欲を示し、採用可能人数を乗じた合計は 239 人となった。

これは、一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）が予定する入学定員の 21 人を非常に大きく上回る採用の意欲・人数を示すものであり、人材需要の見通しは問題ないと判断できる。

添付資料

一橋大学「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／大学院ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」
設置構想に係る人材需要アンケート　　概要／調査用紙／ウェブアンケート画面

一橋大学　ソーシャル・データサイエンス学部
ソーシャル・データサイエンス学科

仮称

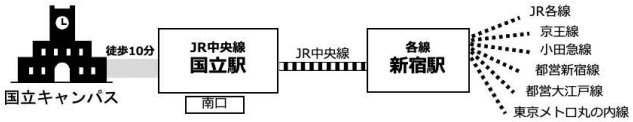
令和5（2023）年4月開設に向け、設置構想中

※記載されている内容は構想中のものであり、変更となる可能性があります

概 要

開設時期：	令和5（2023）年4月
開設場所：	国立キャンパス（東京都国立市中2-1）
修業年限：	4年
入学定員：	60名（収容定員：240名）
取得学位：	学士（ソーシャル・データサイエンス）

アクセス



JR中央線「国立」駅南口より徒歩10分

養成する人材像

ソーシャル・データサイエンス学部（仮称）では、以下のような能力を備えた人材を養成します

- **社会科学とデータサイエンスの知識を融合することができる能力を備えた人材**
- **社会で蓄積されるデータを用いて、ビジネスや社会の諸課題に対する解決策を提案・実践できる能力を備えた人材**

カリキュラムの特色

■ソーシャル・データサイエンス学部教育科目

- **学部導入科目：**社会科学の方法論を概観し、社会においてデータサイエンスの知識を実践するうえでの倫理や法的課題を学びます。
- **学部基礎科目：**社会科学の基礎知識と統計モデルや機械学習の基礎を修得します。
- **学部発展科目：**企業経営の課題を洞察しイノベーションを図る「ビジネス・イノベーション分析科目」および社会課題や政策効果を洞察し解決策や改善策を探る「社会経済課題解決科目」では、社会科学とデータサイエンスの知識が融合した事例に基づく授業を展開します。また、Project Based Learning（PBL）演習を必修とし、企業や政府機関等で実際に行われているデータ分析に直接関わり、社会科学とデータサイエンスの知識を実践的に融合します。

■全学共通教育科目：教育課程全般に必要な「数学科目」や「外国語科目」、データサイエンスの知識の基盤となる「情報科目」と「統計科目」を学びます。

■他学部教育科目：他学部が開講する科目を履修し、広く社会科学の知識を養います。

■ゼミナール：担当教員や他学生との共働を通じて、自発的に研究テーマを設定し、卒業論文を執筆します。

初年次学費

入学金	授業料	合計
282,000円	前期分：321,480円 後期分：321,480円	924,960円

卒業後の進路

ソーシャル・データサイエンス学部（仮称）を卒業した学生は、以下のような進路での活躍が期待されます

- 民間企業（情報技術を活用する企業等）等のプロダクトマネージャー、ビジネスデザイナー、プロダクトデザイナー、データサイエンティスト　など
- 政府機関／金融機関（リスク管理部門や調査部門）／コンサルティング企業／シンクタンク等の政策分析担当者、リスク・マネージャー、予測担当者　など
- 大学院進学（一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称））など

※令和5（2023）年4月に一橋大学大学院にソーシャルデータサイエンス研究科（仮称）修士課程も同時設置構想中です。

競合する大学

理・工学系	東京大学理科一類、京都大学理学部／工学部、大阪大学理学部／基礎工学部、筑波大学理工学群、慶應義塾大学理工学部、早稲田大学基幹理工学部／創造理工学部、東京工業大学工学院／情報理工学院／環境・社会理工学院
情報系	名古屋大学情報学部、筑波大学情報学群、慶應義塾大学環境情報学部
経済学・商学系	東京大学文科二類、京都大学経済学部、大阪大学経済学部、慶應義塾大学経済学部／商学部／総合政策学部、早稲田大学政治経済学部／商学部
データサイエンス系	滋賀大学データサイエンス学部、横浜市立大学データサイエンス学部

一橋大学大学院 ソーシャル・データサイエンス研究科
ソーシャル・データサイエンス専攻 修士課程

仮称

令和5（2023）年4月開設に向け、設置構想中

※記載されている内容は構想中のものであり、変更となる可能性があります

概要

開設時期： 令和5（2023）年4月

開設場所： 国立キャンパス（東京都国立市中2-1）

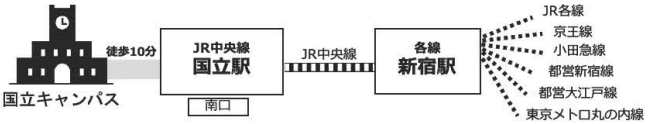
修業年限： 2年

入学定員： 21名（収容定員：42名）

取得学位： 修士（ソーシャル・データサイエンス）

※令和7（2025）年度に博士後期課程の設置を予定しています

アクセス



JR中央線「国立」駅南口より徒歩10分

養成する人材像

ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称）修士課程では、以下のような能力を備えた人材を養成します

実践ソーシャル・データサイエンスコース

▶社会科学とデータサイエンスの高度な知識を融合することで社会の課題を理解し分析する能力を備えた人材

学術ソーシャル・データサイエンスコース

▶社会科学とデータサイエンスの高度な知識を融合することで学術に貢献できる研究能力を備えた人材

カリキュラムの特色

実践ソーシャル・データサイエンスコース：社会科学とデータサイエンスの高度な知識を用いて社会課題を理解・分析

①基礎科目

「ソーシャル・データサイエンス概論」、「データサイエンスの倫理的・法的・社会的諸課題」を学び、より実践的なデータサイエンスの専門知識を修得する「統計分析（実践）」、「機械学習（実践）」を履修します。

②発展科目

企業経営の課題を洞察しイノベーションを図る「ビジネス・イノベーション分析科目」と、社会課題や政策効果を洞察し、解決策や改善策を探る「社会経済課題解決科目」では、社会の重要な課題に対して、社会科学とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した事例に基づく講義を展開します。

③ゼミナール

社会科学とデータサイエンスの高度な知識を用い、実践的な修士論文を執筆します。

学術ソーシャル・データサイエンスコース：社会科学とデータサイエンスの高度な知識を融合し、学術的な研究能力を修得

①基礎科目

「ソーシャル・データサイエンス概論」、「データサイエンスの倫理的・法的・社会的諸課題」を学び、より学術的なデータサイエンスの専門知識を修得する「統計分析（学術）」、「機械学習（学術）」を履修します。

②発展科目

企業経営の課題を洞察しイノベーションを図る「ビジネス・イノベーション分析科目」と社会課題や政策効果を洞察し解決策や改善策を探る「社会経済課題解決科目」では、社会の重要な課題に対して、社会科学とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した事例に基づく講義を展開します。

③リサーチ・ワークショップ

最先端の研究に触れ、社会科学とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した学術領域に貢献できる研究能力を身に着けます。

④ゼミナール

社会科学とデータサイエンスの高度な知識が融合した、学術分野に貢献する修士論文を執筆します。

修了後の進路

ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称）修士課程を修了した学生は、以下のような進路での活躍が期待されます

シンクタンク、金融機関、製造業、卸小売業、情報通信業、運輸業、政府機関や国際機関の調査分析部門等で高いデータ・リテラシーを持ち経営に携わることができる人材や、政策の分析だけではなく、それらを正しく解釈し、統括レベルに携わることができる人材、**大学や公的・民間研究機関、民間企業の研究部門**で、データサイエンス分野の高度化に貢献する人材や、既存の社会科学では充分に取り扱えなかった重要な社会課題に対してデータ駆動型のアプローチ等を用いて新たな学問領域の開拓に貢献する人材　など

初年次学費

入学金	授業料（年額）	合計
282,000円	前期分：267,900円／後期分：267,900円	817,800円

競合する大学院

理・工学系	京都大学理学研究科／工学研究科、大阪大学理学研究科／基礎工学研究科、筑波大学理工情報生命学術院、慶應義塾大学理工学研究科、早稲田大学基幹理工学研究科／創造理工学研究科、東京工業大学工学院／情報理工学院／環境・社会理工学院
情報系	東京大学情報学環・学際情報学府、京都大学情報学研究科、大阪大学情報科学研究科、名古屋大学情報学研究科、筑波大学理工情報生命学術院
経済学・商学系	東京大学経済学研究科、京都大学経済学研究科、大阪大学経済学研究科、慶應義塾大学経済学研究科／商学研究科／経営管理研究科／システムデザイン・マネジメント研究科、早稲田大学経済学研究科／商学研究科
データサイエンス系	滋賀大学データサイエンス研究科、横浜市立大学データサイエンス研究科

一橋大学

ソーシャル・データサイエンス学部　ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）
ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）

設置構想についての採用意向アンケート調査
（対象： 採用ご担当者様）

一橋大学は、2023年4月に、「ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」＜入学定員60名予定＞／「ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」＜入学定員21名予定＞の設置を構想しております。本学では、このアンケート調査を通して、将来卒業生・修了生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。

なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、一橋大学のソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）の設置に係る統計資料並びに、文部科学省への設置認可申請書類の一部資料としてのみ活用いたします。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業が識別できる情報として、公表されることはありません。
何卒ご協力のほど、読んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は、一橋大学から委託された第三者機関・株式会社高等教育総合研究所が実施しています。
※このアンケート調査や関連する資料に記載されている「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」に関する事項はすべて予定であり、今後内容が変更になる可能性があります。

【アンケート記入にあたっての注意事項】
・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用してください。
・訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
・解答用紙（マークシート）を汚したり、折り曲げたりしないでください。

上の正しい回答のように丁寧に塗りつぶしてください。
誤った回答のような場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。

御社およびアンケートへの回答をご担当いただいている方についてお聞きします。

問１ 御社の主たる所在地をお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

- ○ 北海道　○ 青森県　○ 岩手県　○ 宮城県　○ 秋田県　○ 山形県　○ 福島県
- ○ 茨城県　○ 栃木県　○ 群馬県　○ 埼玉県　○ 千葉県　○ 東京都　○ 神奈川県
- ○ 新潟県　○ 富山県　○ 石川県　○ 福井県　○ 山梨県　○ 長野県　○ 岐阜県
- ○ 静岡県　○ 愛知県　○ 三重県　○ 滋賀県　○ 京都府　○ 大阪府　○ 兵庫県
- ○ 奈良県　○ 和歌山県　○ 鳥取県　○ 島根県　○ 岡山県　○ 広島県　○ 山口県
- ○ 徳島県　○ 香川県　○ 愛媛県　○ 高知県　○ 福岡県　○ 佐賀県　○ 長崎県
- ○ 熊本県　○ 大分県　○ 宮崎県　○ 鹿児島県　○ 沖縄県

問２ 御社の業種についてお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

- ○ 農業　○ 林業　○ 漁業
- ○ 鉱業　○ 建設業　○ 製造業
- ○ 電気・ガス・熱供給・水道業　○ 運輸・通信業　○ 卸売・小売業、飲食店
- ○ 金融・保険業　○ 不動産業　○ サービス業
- ○ 公務（他に分類されないもの）　○ その他

問３ 御社の従業員数（正規社員数）についてお答えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

- ○ 50名未満　○ 50名以上100名未満　○ 100名以上500名未満
- ○ 500名以上1,000名未満　○ 1,000名以上5,000名未満　○ 5,000名以上

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問４ このアンケートにご回答頂いている方の人事採用への関与度をお教えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

- ○ 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
- ○ 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
- ○ 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

御社の人事採用についてお聞きします。

問５ 御社の過去３年間の平均的な正規社員の採用数について、お教えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ １～4名　○ ５～9名　○ 10～14名　○ 15～19名　○ 20～49名　○ 50名以上
○ 過去3年間に正規社員は採用しなかった

問６ 新型コロナウイルス感染症の影響がなかった場合の、平均的な採用数がわかればお教えください（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 1～4名　○ 5～9名　○ 10～14名　○ 15～19名　○ 20～49名　○ 50名以上
○ わからない

問７ 御社では、大学卒以上の学歴を持つ人材を採用する場合、どのような系統の学問を修めた人物を積極的に採用したいとお考えですか（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

○ 文・人文学	○ 社会・国際学	○ 法・政治学
○ 経済・経営・商学	○ 教育学（教員養成・総合科学）	○ 理学
○ 工学	○ 農・水産学	○ 医・歯・薬・看護・保健学
○ 生活科学	○ 総合・環境・人間学	○ 情報学
○ 芸術・スポーツ科学	○ その他	○ 学部や学問系統にはこだわらない

問8以降は、別紙の一橋大学 ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）の概要及びソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）の概要をご覧の上で、お答えください。

問８ 一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）には、以下のような特色があります。この中から、特に魅力的だと感じる特色をお選びください（あてはまるものすべてにマークをしてください）。

- ○ 社会科学とデータサイエンスを融合した知識を身に付けられる
- ○ 統計学や情報学・人工知能などに基づいたデータサイエンスの知識を身に付けられる
- ○ 経営学、経済学、法学、社会学など既存の社会科学に横断的な知識を身に付けられる
- ○ 現在の社会における課題をデータ分析を利用して解決する方法を身に付けられる
- ○ 実際の企業や政府機関とのプロジェクトに基づいた演習に参加できる
- ○ 少人数での演習を通じて独自の問題意識に基づいた卒業論文・修士論文を執筆する
- ○ なし

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問9～問11では一橋大学 ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）の学部卒業生の採用についてお伺いします。

問 9　一橋大学 ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思いますか（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 採用したい　○ 採用を検討したい　○ 採用しない

問 10　問9で「採用したい」または「採用を検討したい」とご回答された方に質問します。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5～9人　○ 10人以上
○ 人数は未確定

問 11　問9で「採用しない」と回答した方にお伺いします。どのようなことでも構いませんので、回答の理由をお書きください。

問12～問14では一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）の修士課程修了生の採用についてお伺いします。

問 12　一橋大学 ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称）を修了した学生を採用したいと思いますか（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 採用したい　○ 採用を検討したい　○ 採用しない

問 13　問12で「採用したい」または「採用を検討したい」とご回答された方に質問します。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか（あてはまるもの１つにマークをしてください）。

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5～9人　○ 10人以上
○ 人数は未確定

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問 14 問12で「採用しない」と回答した方にお伺いします。どのようなことでも構いませんので、回答の理由をお書きください。

問 15 設置構想中の一橋大学 ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科 ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

問 16 最後に、御社の企業名をお教えください。なお、こちらはどの企業にご返送頂いたかを把握するためのみのお伺いであり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業が識別できる情報として公表されることはありません。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

[redacted]（共有なし）
アカウントを切り替える

一橋大学は、2023年4月に、「ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）」＜入学定員60名予定＞／「ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」＜入学定員21名予定＞の設置を構想しております。本学では、このアンケート調査を通して、将来卒業生・修了生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。

なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、一橋大学のソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）の設置に係る統計資料並びに、文部科学省への設置認可申請書類の一部資料としてのみ活用いたします。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業が識別できる情報として、公表されることはありません。何卒ご協力のほど、謹んでお願い申し上げます。

注意事項
※このアンケート調査は、一橋大学から委託された第三者機関・株式会社高等教育総合研究所が実施しています。

※このアンケート調査や関連する資料に記載されている「ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）」に関する事項はすべて予定であり、今後内容が変更になる可能性があります。

※質問文の後に赤いアスタリスクマーク（＊）が付いているものは、必須回答項目です。回答の入力がない場合、アンケートの続行、回答送信ができませんのでご注意ください。

次へ　　フォームをクリア

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

[redacted]（共有なし）
アカウントを切り替える

*必須

御社およびアンケートへの回答をご担当いただいている方についてお聞きします。

問１：御社の主たる所在地をお答えください。 *

選択

問２：御社の業種についてお答え下さい。 *

- (1) 農業
- (2) 林業
- (3) 漁業
- (4) 鉱業
- (5) 建設業
- (6) 製造業
- (7) 電気・ガス・熱供給・水道業
- (8) 運輸・通信業
- (9) 卸売・小売業、飲食店
- (10) 金融・保険業
- (11) 不動産業
- (12) サービス業
- (13) 公務（他に分類されないもの）
- その他:

問３：御社の従業員数（正規社員数）についてお答えください。 *

問３：御社の従業員数（正規社員数）についてお答えください。 *

選択

問４：このアンケートにご回答頂いている方の、人事採用への関与度をお教えください。 *

- (1) 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
- (2) 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
- (3) 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

御社の人事採用についてお聞きします。

問５：御社の過去３年間の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。 *

選択

問６：新型コロナウイルス感染症の影響がなかった場合の、平均的な採用数がわかればお教えください。 *

選択

問７：御社では、大学卒以上の学歴を持つ人材を採用する場合、どのような系統の学問を修めた人物を積極的に採用したいとお考えですか（あてはまるものすべてを選択してください）。 *

- [ ] (1) 文・人文学
- [ ] (2) 社会・国際学
- [ ] (3) 法・政治学
- [ ] (4) 経済・経営・商学
- [ ] (5) 教育学（教員養成・総合科学）
- [ ] (6) 理学
- [ ] (7) 工学
- [ ] (8) 農・水産学
- [ ] (9) 医・歯・薬・看護・保健学
- [ ] (10) 生活科学

問７：御社では、大学卒以上の学歴を持つ人材を採用する場合、どのような系統の学問を修めた人物を積極的に採用したいとお考えですか（あてはまるものすべてを選択してください）。 *

- [ ] (1) 文・人文学
- [ ] (2) 社会・国際学
- [ ] (3) 法・政治学
- [ ] (4) 経済・経営・商学
- [ ] (5) 教育学（教員養成・総合科学）
- [ ] (6) 理学
- [ ] (7) 工学
- [ ] (8) 農・水産学
- [ ] (9) 医・歯・薬・看護・保健学
- [ ] (10) 生活科学
- [ ] (11) 総合・環境・人間学
- [ ] (12) 情報学
- [ ] (13) 芸術・スポーツ科学
- [ ] (14) その他
- [ ] (15) 学部や学問系統にはこだわらない

問８：一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）には、以下のような特色があります。この中から、特に魅力的だと感じる特色をお選びください（あてはまるものすべてを選択してください）。 *

- [ ] (1) 社会科学とデータサイエンスを融合した知識を身に付けられる
- [ ] (2) 統計学や情報学・人工知能などに基づいたデータサイエンスの知識を身に付けられる
- [ ] (3) 経営学、経済学、法学、社会学など既存の社会科学に横断的な知識を身に付けられる
- [ ] (4) 現在の社会における課題をデータ分析を利用して解決する方法が身に付けられる
- [ ] (5) 実際の企業や政府機関とのプロジェクトに基づいた演習に参加できる
- [ ] (6) 少人数での演習を通じて独自の問題意識に基づいた卒業論文・修士論文を執筆する
- [ ] (7) なし

戻る　次へ　フォームをクリア

学部　設置構想

こちらの新学部に関する資料をお読みいただいた上で、次にお進み下さい。

ソーシャル・データサイエンス学部　ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）

一橋大学　ソーシャル・データサイエンス学部
ソーシャル・データサイエンス学科

仮称

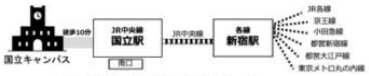
令和5（2023）年4月開設に向け、設置構想中

※記載されている内容は構想中のものであり、変更となる可能性があります

概要

開設時期：	令和5（2023）年4月
開設場所：	国立キャンパス（東京都国立市中2-1）
修業年限：	4年
入学定員：	60名（収容定員：240名）
取得学位：	学士（ソーシャル・データサイエンス）

アクセス



JR中央線「国立」駅南口より徒歩10分

養成する人材像

ソーシャル・データサイエンス学部（仮称）では、以下のような能力を備えた人材を養成します

- **社会科学とデータサイエンスの知識を融合することができる能力を備えた人材**
- **社会で蓄積されるデータを用いて、ビジネスや社会の諸課題に対する解決策を提案・実践できる能力を備えた人材**

カリキュラムの特色

■ソーシャル・データサイエンス学部教育科目

- **学部導入科目：**社会科学の方法論を概観し、社会においてデータサイエンスの知識を実践するうえでの倫理や法的課題を学びます。
- **学部基礎科目：**社会科学の基礎知識と統計モデルや機械学習の基礎を修得します。
- **学部発展科目：**企業経営の課題を洞察しイノベーションを図る「ビジネス・イノベーション分析科目」および社会課題や政策効果を洞察し解決策や改善策を探る「社会経済課題解決科目」では、社会科学とデータサイエンスの知識が融合した事例に基づく授業を展開します。また、Project Based Learning（PBL）演習を必修とし、企業や政府機関等で実際に行われているデータ分析に直接関わり、社会科学とデータサイエンスの知識を実践的に融合します。

■全学共通教育科目：教育課程全般に必要な「数学科目」や「外国語科目」、データサイエンスの知識の基盤となる「情報科目」と「統計科目」を学びます。

■他学部教育科目：他学部が開講する科目を履修し、広く社会科学の知識を養います。

■ゼミナール：担当教員や他学生との共働を通じて、自発的に研究テーマを設定し、卒業論文を執筆します。

初年次学費

入学金	授業料	合計
282,000円	前期分：321,480円 後期分：321,480円	924,960円

卒業後の進路

ソーシャル・データサイエンス学部（仮称）を卒業した学生は、以下のような進路での活躍が期待されます

- 民間企業（情報技術を活用する企業等）等のプロダクトマネージャー、ビジネスデザイナー、プロダクトデザイナー、データサイエンティスト　など
- 政府機関／金融機関（リスク管理部門や調査部門）／コンサルティング企業／シンクタンク等の政策分析担当者、リスク・マネージャー、予測担当者　など
- 大学院進学（一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称））など

※令和5（2023）年4月に一橋大学大学院にソーシャルデータサイエンス研究科（仮称）修士課程も同時設置構想中です。

競合する大学

理・工学系	東京大学理科一類、京都大学理学部／工学部、大阪大学理学部／基礎工学部、筑波大学理工学群、慶應義塾大学理工学部、早稲田大学基幹理工学部／創造理工学部、東京工業大学工学院／情報理工学院／環境・社会理工学院
情報系	名古屋大学情報学部、筑波大学情報学群、慶應義塾大学環境情報学部
経済学・商学系	東京大学文科二類、京都大学経済学部、大阪大学経済学部、慶應義塾大学経済学部／商学部／総合政策学部、早稲田大学政治経済学部／商学部
データサイエンス系	滋賀大学データサイエンス学部、横浜市立大学データサイエンス学部

※下記のリンクからPDF（学部版）をダウンロードすることもできます。
https://dl.dropboxusercontent.com/s/kqg4v9zkotmndvq/%E4%B8%80%E6%A9%8B%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E5%AD%A6%E9%83%A8%E6%A6%82%E8%A6%81_210817.pdf?raw=1

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

[redacted]（共有なし）
アカウントを切り替える

*必須

問９～問１１では一橋大学 ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）の学部卒業生の採用についてお伺いします。

問９：一橋大学 ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思いますか。 *

- (1) 採用したい
- (2) 採用を検討したい
- (3) 採用しない

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

[redacted]（共有なし）
アカウントを切り替える

*必須

問１０：問９で「１．採用したい」または「２．採用を検討したい」とご回答された方に質問します。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか。 *

- (1) 1人
- (2) 2人
- (3) 3人
- (4) 4人
- (5) 5人～9人
- (6) 10人以上
- (7) 人数は未確定

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

[redacted] （共有なし）
アカウントを切り替える

問１１：問９で「３．採用しない」と回答した方にお伺いします。どのようなことでも構いませんので、回答の理由をお書きください。

回答を入力

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

修士課程　設置構想

こちらの新研究科に関する資料をお読みいただいた上で、次にお進み下さい。

ソーシャル・データサイエンス研究科　ソーシャル・データサイエンス専攻

一橋大学大学院 ソーシャル・データサイエンス研究科 ソーシャル・データサイエンス専攻 修士課程

仮称

令和5（2023）年4月開設に向け、設置構想中

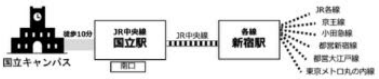
※記載されている内容は構想中のものであり、変更となる可能性があります

概要

開設時期：	令和5（2023）年4月
開設場所：	国立キャンパス（東京都国立市中2-1）
修業年限：	2年
入学定員：	21名（収容定員：42名）
取得学位：	修士（ソーシャル・データサイエンス）

※令和7（2025）年度に博士後期課程の設置を予定しています

アクセス



JR中央線「国立」駅南口より徒歩10分

養成する人材像

ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称）修士課程では、以下のような能力を備えた人材を養成します

実践ソーシャル・データサイエンスコース

▶社会科学とデータサイエンスの高度な知識を融合することで社会の課題を理解し分析する能力を備えた人材

学術ソーシャル・データサイエンスコース

▶社会科学とデータサイエンスの高度な知識を融合することで学術に貢献できる研究能力を備えた人材

カリキュラムの特色

実践ソーシャル・データサイエンスコース：社会科学とデータサイエンスの高度な知識を用いて社会課題を理解・分析

①基礎科目

「ソーシャル・データサイエンス概論」、「データサイエンスの倫理的・法的・社会的諸課題」を学び、より実践的なデータサイエンスの専門知識を修得する「統計分析（実践）」、「機械学習（実践）」を履修します。

②発展科目

企業経営の課題を洞察しイノベーションを図る「ビジネス・イノベーション分析科目」と、社会課題や政策効果を洞察し、解決策や改善策を探る「社会経済課題解決科目」では、社会の重要な課題に対して、社会科学とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した事例に基づく講義を展開します。

③ゼミナール

社会科学とデータサイエンスの高度な知識を用い、実践的な修士論文を執筆します。

学術ソーシャル・データサイエンスコース：社会科学とデータサイエンスの高度な知識を融合し、学術的な研究能力を修得

①基礎科目

「ソーシャル・データサイエンス概論」、「データサイエンスの倫理的・法的・社会的諸課題」を学び、より学術的なデータサイエンスの専門知識を修得する「統計分析（学術）」、「機械学習（学術）」を履修します。

②発展科目

企業経営の課題を洞察しイノベーションを図る「ビジネス・イノベーション分析科目」と社会課題や政策効果を洞察し解決策や改善策を探る「社会経済課題解決科目」では、社会の重要な課題に対して、社会科学とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した事例に基づく講義を展開します。

③リサーチ・ワークショップ

最先端の研究に触れ、社会科学とデータサイエンスの高度な知識が有機的に融合した学術領域に貢献できる研究能力を身に着けます。

④ゼミナール

社会科学とデータサイエンスの高度な知識が融合した、学術分野に貢献する修士論文を執筆します。

修了後の進路

ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称）修士課程を修了した学生は、以下のような進路での活躍が期待されます

シンクタンク、金融機関、製造業、卸小売業、情報通信業、運輸業、政府機関や国際機関の調査分析部門等で高いデータ・リテラシーを持ち経営に携わることができる人材や、政策の分析だけではなく、それらを正しく解釈し、統括レベルに携わることができる人材、**大学や公的・民間研究機関、民間企業の研究部門**で、データサイエンス分野の高度化に貢献する人材や、既存の社会科学では充分に取り扱えなかった重要な社会課題に対してデータ駆動型のアプローチ等を用いて新たな学問領域の開拓に貢献する人材　など

初年次学費

入学金	授業料（年額）	合計
282,000円	前期分：267,900円／後期分：267,900円	817,800円

競合する大学院

理・工学系	京都大学理学研究科／工学研究科、大阪大学理学研究科／基礎工学研究科、筑波大学理工情報生命学術院、慶應義塾大学理工学研究科、早稲田大学基幹理工学研究科／創造理工学研究科、東京工業大学工学院／情報理工学院／環境・社会理工学院
情報系	東京大学情報学環・学際情報学府、京都大学情報学研究科、大阪大学情報科学研究科、名古屋大学情報学研究科、筑波大学理工情報生命学術院
経済学・商学系	東京大学経済学研究科、京都大学経済学研究科、大阪大学経済学研究科、慶應義塾大学経済学研究科／商学研究科／経営管理研究科／システムデザイン・マネジメント研究科、早稲田大学経済学研究科／商学研究科
データサイエンス系	滋賀大学データサイエンス研究科、横浜市立大学データサイエンス研究科

※下記のリンクからPDF（修士版）をダウンロードすることもできます。

https://dl.dropboxusercontent.com/s/07t7qz8xfev898j/%E4%B8%80%E6%A9%8B%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E7%A7%91%E6%A6%82%E8%A6%81_210817.pdf?dl=0

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

[redacted]（共有なし）
アカウントを切り替える

*必須

問１２～問１４では一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）の修士課程修了生の採用についてお伺いします。

問１２：一橋大学大学院 ソーシャル・データサイエンス研究科（仮称）を修了した学生を採用したいと思いますか。 *

- (1) 採用したい
- (2) 採用を検討したい
- (3) 採用しない

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

[redacted]（共有なし）
アカウントを切り替える

*必須

問１３：問１２で「1. 採用したい」または「2. 採用を検討したい」とご回答された方に質問します。現時点で採用可能と思われる人数は何人ですか。 *

- (1) 1人
- (2) 2人
- (3) 3人
- (4) 4人
- (5) 5人～9人
- (6) 10人以上
- (7) 人数は未確定

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

[redacted]（共有なし）
アカウントを切り替える

問１４：問１２で「３．採用しない」と回答した方にお伺いします。どのようなことでも構いませんので、回答の理由をお書きください。

回答を入力

戻る　次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

一橋大学 新学部／新研究科 設置構想についての採用意向アンケート調査

kosoken.baito@gmail.com （共有なし）
アカウントを切り替える

*必須

問１５：設置構想中の一橋大学 ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科（仮称）／大学院ソーシャル・データサイエンス研究科ソーシャル・データサイエンス専攻（仮称）について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

回答を入力

＊最後に、御社の企業名をお教えください。なお、こちらはどの企業にご返送頂いたかを把握するためのみのお伺いであり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業が識別できる情報として公表されることはありません。 *

回答を入力

戻る　送信　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 不正行為の報告 - 利用規約 - プライバシーポリシー

Google フォーム